

# 目 次

<p>はじめに ..... 1</p> <p>順天堂大学医学部コンピテンシー ..... 2</p> <p>順天堂の建学の理念 ..... 6</p> <p>順天堂大学医学部の使命 ..... 7</p> <p>医学教育のあり方について・教員の責務と学生の義務 ..... 13</p> <p>病院等での実習の心得 ..... 14</p> <p style="padding-left: 20px;">[理念・医師の服装についてのマニュアル]</p> <p>個人情報保護に関する誓約書 ..... 17</p> <p>学業成績の利用に関する同意書 ..... 17</p> <p>学外実習先に提出する履歴書書式 ..... 19</p> <p>2024年度M1～M6 開講科目ナンバリング ..... 20</p> <p>医学部カリキュラム・ツリー (2024年度) ..... 22</p> <p>医学部カリキュラム概略図 (2024年度) ..... 23</p> <p>M1 授業の目的と内容について ..... 25</p> <p>履修に関する基本事項について ..... 27</p> <p>2024年度医学部1年開講科目 ..... 37</p> <p>M1 カリキュラム表 ..... 38</p> <p>一般教育と医学への橋渡しイメージ図 ..... 39</p> <p><b>【 1 年 】</b></p> <p>2024年度医学部1年開講科目 (授業概要はJUNTENDO PASSPORT掲載)</p> <p><b>(1) 必修科目 (一般教養)</b></p> <p style="padding-left: 20px;">医療プロフェッショナルリズム入門</p> <p style="padding-left: 20px;">医療入門</p> <p style="padding-left: 20px;">行動科学 I</p> <p style="padding-left: 20px;">医学研究入門 I</p> <p style="padding-left: 20px;">Practical English for TOEFL I</p> <p style="padding-left: 20px;">Practical English for TOEFL II</p> <p style="padding-left: 20px;">TOEFL・IELTS演習</p> <p style="padding-left: 20px;">スポーツと健康</p> <p style="padding-left: 20px;">ライフサイエンスのための化学</p> <p style="padding-left: 20px;">人体物理学</p> <p style="padding-left: 20px;">細胞生物学</p> <p style="padding-left: 20px;">統計解析への数学</p> <p style="padding-left: 20px;">データサイエンス基礎</p>	<p><b>(2) 選択必修科目 (実習)</b></p> <p style="padding-left: 20px;">自然科学系総合実習</p> <p style="padding-left: 40px;">(化学) 定性分析</p> <p style="padding-left: 40px;">(化学) 生体物質の分離と定量の基礎</p> <p style="padding-left: 40px;">(物理) 物理学入門</p> <p style="padding-left: 40px;">(物理) ミクロの世界から</p> <p style="padding-left: 40px;">(生物) 顕微鏡観察</p> <p style="padding-left: 40px;">(生物) カエルの解剖</p> <p style="padding-left: 40px;">(数学) データサイエンス実践 I</p> <p style="padding-left: 40px;">(数学) データサイエンス実践 II</p> <p><b>(3) 選択必修科目 (PBL)</b></p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (水と生命)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (法則と方程式)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (プログラミングとアルゴリズム)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (素粒子の<math>\alpha\beta\gamma</math>)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (医療の思想と倫理)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (Medicine from a Global Perspective)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (生物の多様性)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (Can we trust diet studies?)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (ことばの力、the power of words)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (医事ニュースを読み解く統計学)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (健康を支える科学)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (錯覚錯視の原理と応用)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (Listening Skills : Development and Assessment)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (バイオマテリアルと医療)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (身近な毒との微妙な関係)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (Health Economics)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (Diversity in culture, language use, and language learning)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (患者さんから見た医療)</p> <p style="padding-left: 20px;">PBL (AIと医療)</p> <p><b>(4) 選択科目</b></p> <p style="padding-left: 20px;"><b>①自然科学系科目</b></p> <p style="padding-left: 40px;">Medical Biology in English</p> <p style="padding-left: 40px;">2変数の微分積分入門</p> <p style="padding-left: 40px;">相対論入門：時空とエネルギー</p> <p style="padding-left: 40px;">ヒューマンバイオロジー</p> <p style="padding-left: 40px;">分子の形</p>
--	---

# 目 次

## ②語学系科目

Introduction to ECFMG  
Academic English for TOEFL I - Photography -  
Academic English for TOEFL II - The Origins of Medicine -  
Academic English for TOEFL III - Music and Drama Performance -  
Academic English for TOEFL IV - Global Media Literacy -  
Academic English for TOEFL V - Patient Insights -  
Academic English for TOEFL VI - Medical Anthropology and Ethnomedicine -  
Academic English for TOEFL VII - Social Issues Film/Documentaries -  
TOEFL特別演習 I (ABC)  
TOEFL特別演習 II (CDE)  
TOEFL特別演習 III (ABC)  
TOEFL特別演習 IV (CDE)  
ドイツ語 I  
ドイツ語 II  
フランス語 I  
フランス語 II  
中国語 I  
中国語 II  
日本語リテラシー  
日本語アカデミックライティング

## ③人文社会学系科目

コミュニケーション論  
生きる意志 (倫理学)  
医療社会学  
医療の経営学  
医療行為と法  
文化の中の健康  
メディカル・ヒューマニティーズ

## ④自由選択科目

新しい世界を拓いた人々  
知の統合  
医学研究入門 II  
科学研究のための基礎  
科学研究ゼミナール

## ⑤他学部開講科目

日本国憲法  
心理学  
文学

## (5) 必修科目 (基礎医学入門)

組織細胞生物学	.....	40
組織学実習	.....	42
医療プロフェッショナリズム入門	.....	50
多職種連携：早期体験実習		

○医の原則・医学と医療の倫理等に関する授業一覧 ..... 56

○2024年度における各学年の進級判定基準 ..... 60

# はじめに

医学部長 高橋 和久

近年の医学の進歩は目覚ましく、医学部の学生が修得しなくてはならない知識・技能は膨大なものとなっています。したがって、限られた授業時間のなかで十分な学習効果をあげるためには、皆さんの「active な学びの姿勢」が不可欠です。医学部の6年間では、将来自分が医師や研究者として活躍するために必要な知識・技能・態度を勉強することになりますが、実は医学部卒業後も生涯を通じてこの「active な学びの姿勢」を保持し続けることが求められます。医学部教育において最も大切なことは、受動的に知識を取得するのではなく、自ら学び、考え、問題を解決する能力を育成することです。皆さんには自ら学習する習慣（passiveなものから activeなものへ）を培ってもらいたいと思います。実際、教員による一方向の講義ではなく、Team-Based Learning (TBL) や質疑応答を多く取り入れた双方向の講義の学習効果が高いと言われています。

このシラバスはこのような理念に基づき、皆さんが自主学習しやすいようにと、担当の先生方が思いを込めて作成されたものです。シラバスには、どの日にどのようなテーマで講義や実習が行われるかが記載されています。あらかじめ一読し予備知識をもって、講義や実習に臨んで下さい。そうすることで、より一層理解することができ、医学に興味をもてるようになると思います。このシラバスを大いに活用し、積極的に知識や技術を学んでいただくことを心から期待しています。

順天堂大学医学部コンピテンシー達成レベルの説明

Millerの臨床能力評価ピラミッドのレベル		Advanced	Applied	Basic	Very Basic	記入 なし
		A (Does)	B (Shows how)	C (Knows how)	D (Knows)	
順天堂大学医学部コンピテンシー		解説	解説	解説	解説	
DP1	<b>1 診療技能・患者ケア</b>	自ら診療できる(任せられる)・監視下で診療できる・診察に参加・手伝いができる。	シミュレーターや模擬患者を使い、診療的に関係する内容(診察・診断・治療計画など)ができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
	a 成人及び小児・高齢者の基本的な医療面接・身体診察と臨床手技を適切に実施できる。					
	b 診断・治療・全身管理に積極的に参加できる。					
	c 患者・家族の思いや苦しみを理解し最善の医療に参加できる。					
	d 病状説明・患者教育に参加できる。					
	<b>2 医学的知識</b>	実践の場で問題解決に応用できる。	問題解決に応用できる知識を示すことができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識を示せることができる。	該当なし
a 各臓器の構造と機能を理解し、説明できる。						
b 各臓器の異常に基づく病態や臨床症候について概説できる。						
c 発達、成長、加齢に関する知識を有し、応用できる。						
d 臨床推論により疾患を鑑別でき、診断に必要な検査と治療内容を計画できる。						
e 基礎医学と臨床医学の知識を連携させて症状・疾患を理解できる。						
f 最新のエビデンスに基づく医学・医療情報を理解・応用することができる。						
DP2	<b>3 医療安全</b>	実践の場で修得した能力・知識を応用できる。	模擬的な状況に対して、必要な能力・知識を示すことができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
	a 正確な医療知識・技術が医療安全につながる事が理解できる。					
	b インフォームド・コンセントを理解し実践できる。					
	c 個人情報の扱いの重要性を理解し、適切に管理・運用できる。					
	d 感染予防対策の適切な方法・プロセスを理解し、実践できる。					
	e 問題を起こしやすい状況とその対応を理解し、情報共有ができる。					
f 自己の健康管理ができる。						
DP3	<b>4 チーム医療</b>	診療の一部として、患者や診療チームのメンバーと問題なくコミュニケーションできる。	模擬的な状況で、患者や診療チームのメンバーとのコミュニケーション内容を示すことができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
	a 医療チームの一員として積極的に参加できる。					
	b 他職種の職務内容とチーム医療を理解し、必要な知識を有し、連携することができる。					
	c 患者の抱える問題を理解し、医療スタッフと情報交換できる。					
	<b>5 コミュニケーション</b>	診療の一部として患者や診療チームのメンバーと、あるいは一般社会や大学において問題なくコミュニケーションできる。	模擬的な状況で、コミュニケーション内容を示すことができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
	a 一般社会人として信頼関係が構築でき、情報共有ができる。					
b 医師や他の医療職種、患者、家族と良好なコミュニケーションがとれる。						
c プレゼンテーション能力や人を指導・教える能力を有し、応用できる。						
DP4	<b>6 医療の社会性</b>	実践の場で問題解決に応用できる。	問題解決に応用できる知識を示すことができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識を示せることができる。	該当なし
	a 行動科学、社会医学を理解し、医療制度を概説できる。					
	b 患者・国民のニーズを理解し、必要な医療と医療制度を概説できる。					
c 地域医療のシステム、現状、問題点、プライマリ・ケアの役割を理解できる。						
DP5	<b>7 倫理とプロフェッショナリズム</b>	実際の診療の場で、要求されている内容を示す、あるいは価値観を示すことができる。	模擬診療的な状況で要求されている内容を示す、あるいは価値観を示すことができる。	知識を応用した学習ができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
	a 医の倫理・生命倫理および患者の権利について理解し行動できる。					
	b 倫理・法律に反しない行動ができ、利益相反について理解できる。					
	c 患者の立場と心理を理解し、双方にとっての最善の結果が得られる医療を提案できる。					
d 社会資源を使って育成されていることを認識し、医療人としての責任感をもって行動できる。						
DP6	<b>8 自律的学習能力</b>	要求されている内容を実際の場で示すことができる。	要求されている内容を模擬的な場面で示すことができる。	知識を応用した学習ができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
	a 自分の目標に向けた学習ができる。					
	b 適切な情報収集ができ、活用できる。					
	c 後輩・同級生を指導することで自らも学ぶことができる。					
	d 医学研究に対する興味を高めることができる。					
	<b>9 順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任</b>	要求されている内容を実際の場で示すことができる。実践できる。	要求されている内容を模擬的な場面で示すことができる。	知識を応用した学習ができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
a 順天堂大学で学んだ者として、思いやりを持った行動ができる(寮生活などの共同生活経験を含む)。						
b 医の歴史を理解した上で、医学・医療の発展をめざすことができる。						
c 健康に与える運動の影響を考慮した医療を提言できる。						
d 国際的に活躍できる語学力、医療能力を身につける(TOEFL・IELTS・USMLE対策、交換留学などを含む)。						





# 順天堂大学医学部 カリキュラムマップ・コンピテンシー達成レベル表

ディプロマ・ポリシー (DP)			コンピテンシー	
DP1	診療技能・患者ケア, 医学的知識	科学的根拠に基づいた医療・医学研究を行うための基礎、臨床的医学的知識を有し、体系的に理解し説明できる。それを応用し、基本的な診察・手技を適切に実践できる。	1. 診療技能・患者ケア	
DP2	医療安全	医療安全の重要性を理解し、適切に実践できる。感染予防対策の適切な方法・プロセス、問題を起こしやすい状況とその対応を理解し実践できる。	2. 医学的知識	
DP3	チーム医療, コミュニケーション	チーム医療や患者の抱える問題を理解し、医療チームの一員として適切に多職種と連携することができる。他者と信頼関係を構築することができ、良好なコミュニケーションがとれる。	3. 医療安全	
DP4	医療の社会性	行動科学、社会医学、地域医療のシステム、プライマリ・ケアを理解したうえで、患者・国民のニーズを認識し、必要な医療と医療制度を概説できる。	4. チーム医療	
DP5	倫理とプロフェッショナリズム	医の倫理・生命倫理、患者の権利・立場と心理を理解し、高い倫理観・適正な態度を身につけている。倫理・法律に反しない行動ができ、医療人・研究者としての責任感をもって行動できる。	5. コミュニケーション	
DP6	自立的学習能力, 順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任	順天堂大学で学んだ者として、生涯にわたってアクティブに自分の目標に向けた学習をする不断前進の態度・習慣を身につけ、医の歴史や健康に与える運動の影響を理解し、他を思いやり悲しむ心(学短「仁」)を持った行動ができる。グローバル化する国際社会において医学・医療の分野で国際的に活躍できる語学力、医療能力、未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養を有している。	6. 医療の社会性	
			7. 倫理とプロフェッショナリズム	
			8. 自立的学習能力	
			9. 順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任	

分類	語学			医療入門				行動科学・社会医学				体験実習等						基礎医学						基礎研究	臨床医学									臨床実習						必修講義									
	M2	M3	M4	M1	M1	M1	M2	M1	M3	M4	M4	M2	M2	M2	M2	M3	M3	M3	M3	M1	M2	M2	M2		M2	M2	M3	M4	M4	M4	M4	M4		M5	M5	M6	M6												
学年	M2	M3	M4	M1	M1	M1	M2	M1	M3	M4	M4	M2	M2	M2	M2	M3	M3	M3	M3	M1	M2	M2	M2	M2	M2	M3	M4	M4	M4	M4	M4	M5	M5	M6	M6														
カリキュラム 2024年度版	English	English	English	医療入門	医療プロフェッショナル入門	医学研究入門I	医学研究I	行動科学	(含Zの医学演習)	行動科学II・社会医学	衛生・公衆実習	救急医学実習	基本手技	医療安全から見た医療プロフェッショナリズム	医療体験実習	医療面接実習	診察技法	基本手技	医療体験実習	組織細胞生物学	Unit 1	Zonne A	Zonne B	Zonne C	Zonne D	Zonne E	Zonne F	基礎ゼミナール	Group 1	Group 2	Group 3	Group 4	Group 5	Group 6	Group 7	Group 8	Group 9	臨床実習前トレーニング	M4臨床実習(コア科実習)	M5臨床実習(コア科実習)	M5エキスパート実習	M6エキスパート実習	M6インターンシップ実習	M6必修講義					
DP・コンピテンシー																																																	
DP5	7 倫理とプロ フェッショ ナリズム	a	医の倫理・生命倫理および患者の権利について理解し行動できる。																																														
		b	倫理・法律に反しない行動ができ、利益相反について理解できる。																																														
		c	患者の立場と心理を理解し、双方にとっての最善の結果が得られる医療を提案できる。																																														
		d	社会資源を使って育成されていることを認識し、医療人としての責任感をもって行動できる。																																														
DP6	8 自立的学 習能力	a	自分の目標に向けた学習ができる。																																														
		b	適切な情報収集ができ、活用できる。																																														
		c	後輩・同級生を指導することで自らも学ぶことができる。																																														
		d	医学研究に対する興味を高めることができる。																																														
DP6	9 順天堂大 学医学部 で学んだ 者としての 誇りと責任	a	順天堂大学で学んだ者として、思いやりを持った行動ができる(寮生活などの共同生活経験を含む)。																																														
		b	医の歴史を理解した上で、医学・医療の発展をめざすことができる。																																														
		c	健康に与える運動の影響を考慮した医療を提言できる。																																														
		d	国際的に活躍できる語学力、医療能力を身につける(TOEFL・IELTS・USMLE対策、交換留学などを含む)。																																														

記入なし: 修得の機会がない

## 順天堂の建学の理念

「順天堂」の歴史は、天保 9 年（1838 年）初代堂主佐藤泰然が江戸・薬研堀（両国橋の袂）に蘭方塾を開いた時に遡る。そして順天堂は医育機関を併設した西洋医学の医療機関として、日本で最も長い歴史と伝統を持つ。

天保 14 年(1843 年)、佐倉に新たに塾を開くが、この幕末から明治初期に至る佐倉順天堂時代には、最新の西洋医学と医療技術の導入により患者に最善の医療を提供しようとあらゆる努力が払われた。これは、即ち、今でいう **patient-oriented medicine** の実践を信条とした医療であった。また、順天堂は全国から入門する百数十名をこえる塾生の教育に力を入れたが故に、【日新の医学、佐倉の林中より生ず】という言葉が生まれるに到った。爾来、順天堂は常に時流を見据えて【不断前進】の理念を持ち続け、創造的な歩みを進めてきた。

たゆまぬ前進と改革を続ける一方で、不易に守り通してきた精神は、【天道に則り、自然の摂理に順う】ことで、これこそが、中国の古典・易経に表された【順天応人】、孟子の言葉に見られる【順天存者、逆天滅者】であり、本学の名称の由来となる精神となっている。

医学に携わる者は、常に天道に真摯に従い、人間世界の援護者であり続けなければならない。従って、開学以来、本学が重視してきた信条は、まさに【人間医師】の育成であり、順天の精神を根底に持つ人材の育成である。

また、現在における【学校法人 順天堂】では医療と医学教育に併せて、スポーツ健康科学部を設け、少人数制による全人格的教育をもって、体育・スポーツ・健康の維持、そして、健康増進の相互関係を究明し、医学知識の豊かな保健体育指導者の養成、更に、医療看護学部では看護師と保健師、助産師の育成にも力を注いでいる。このように順天堂は国民の病を癒すことのみならず、高齢者を含めた全国民の健康維持と増進をその理念として歴史を刻んできた。

順天堂の校章は、「仁」の文字を意匠化したもので明治時代から順天堂医院の薬袋に使用されていたものである。「人ありて我あり、他を思いやり、慈しむ心」これ即ち「仁」。病める人々の立場に立つ心、学是であるこの「仁」を大切に育み、次世代を担う学生や若い研究者の涵養をしつつ近代医療を推進している。

# 順天堂大学医学部の使命

## (教育研究上の目的)

医学部は、人類の健康・福祉に寄与できる専門的な知識、技術を身につけ、「科学者」の視点を持ちつつ、感性豊かな教養人としての医師・医学者を養成することを目的（=使命）とする。そのために、以下の目標を定める。

1. 科学的根拠に基づいた医学・医療を行うための体系的な知識と確実な技術を身につける。
2. 不断前進する医学・医療を生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣を身につける。
3. 常に相手の立場に立って物事を考え、高い倫理観を持ち、人間として、医師・医学者として他を慮り、慈しむ心、即ち学是「仁」の心を涵養する。
4. チーム医療・研究を円滑に遂行できる能力と習慣を身につける。
5. 国際社会に役立ち、未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養を培う。

## 順天堂大学医学部 3 ポリシー

## 1. アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

## 求める学生像

医学部では、医学・医療の知識・技能のみならず豊かな感性と教養を持ち、国際社会や地域社会に貢献し、未来を拓く人間性溢れる医師・医学者を養成するため、次のような学生を求めます。

- 1.一人の人間として、人間と自然を愛し、相手の立場に立つ思いやりと高い倫理観を有する人
- 2.幅広い人間性、柔軟性と協調性を備えた基本的なコミュニケーション能力を有する人
- 3.自ら課題を発掘し、知的好奇心を持って、課題解決に取り組む主体性を有する人
- 4.国際的な視点から医学・医療の進歩に貢献しようとする熱意を有する人
- 5.入学後も、自己啓発・自己学習・自己の健康増進を継続する意欲を有する人

## 大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等

医学部では、大学入学までに高等学校等において、次の教科・科目等を身に付けておくことが望まれます。

- 1.理科:物理、化学、生物についての十分な知識と科学的な思考力・探究心
- 2.数学:数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学Bについての十分な知識と論理的思考力
- 3.英語:国際社会で活躍するための基礎的なコミュニケーション能力、十分な読解力、表現力、思考力、会話能力、言語や文化についての理解、TOEFL-iBT 68 点程度/IELTS 6.0 程度、もしくは同等水準の英語能力
- 4.国語:十分な文章読解力、文章構成力、論理的表現力
- 5.地理歴史・公民:世界史B、日本史B、地理B、現代社会、倫理、政治・経済についての基礎的な知識
- 6.特別活動及び課外活動等を通じた主体性、協調性、思いやり、奉仕の心

## 入学者選抜の基本方針

医学部では、医師・医学者になろうと努力する学生に対し、6年間で卒業し、ストレートで医師国家試験に合格させるよう教育しますが、単に医師国家試験合格だけを目指すのではなく、国家試験をものともしない、知性と教養と感性溢れる医師・医学者を養成するため、入学者選抜方法として、学力試験のみならず、受験生の感性や医師・医学者となるべき人物・識見・教養を見極めるために、小論文試験・面接試験を課し、また、小中高に至る活動を知る資料の提出により、総合的な判定に基づき、入学者を選抜します。

## 2. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

順天堂大学医学部の使命の下で、卒前卒後の継ぎ目のない教育を目指し、順天堂大学医学部のコンピテンシーを身に付け、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を修得するため、以下のとおり教育課程を編成・実施します。また、学修成果を適切に評価し、教育方法の改善を行います。

1. 常に相手の立場に立って物事を考え、人間として、医療人として他を思いやり、慈しむ心、即ち学是「仁」の心を涵養するため、1年生全員を学生寮に約1年間入寮させ、集団の中での個の確立と、学是「仁」の涵養を寮生として実践実習します。
2. 科学的根拠に基づいた医学・医療・研究を行うための体系的な知識、確実な技術・技能、適正な態度を身に付けるため、1年次には自然科学と英語を中心とした基礎教育及び医療入門を提供します。また、特定の課題を少人数による議論と思考で進めるPBL(Problem Based Learning)を行い、全学生のモチベーション及び課題探求力・分析的評価能力を向上させる場を提供します。1年次後半以降の専門科目においては、生命科学、基礎医学、臨床医学を関連づけ、体系的に学び、医学への探求心を養うため、臓器別・病態別の水平的・垂直的統合型カリキュラムを採用します。
3. 3年次には、科学的思考能力を高め、医学における研究の重要性を理解し、生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣を涵養する小グループ制の基礎ゼミナールを設定します。将来、研究者を目指す者に対しては、研究医を養成するコースを設けます。
4. 入学後の早い時期から病院見学、看護実習、施設実習、医療体験実習、診察技法実習、基本手技実習、救急医学実習等の体験実習を行います。医療職の一員として医療の現場に参画することにより、保健医療制度を理解し、多様な職種との連携や共同作業を行えるコミュニケーション能力の涵養を目指します。特に、4年次後半からの本格的な臨床実習では、それぞれ特徴的な機能を持つ医学部附属6病院で患者を受け持ち、実際に医療チームに加わることにより、臨床能力を身に付ける教育を行います。
5. 教養教育を重視するとともに、国際社会で活躍できる能力を養うため、実践英語を高学年まで課します。5、6年次の臨床実習では、海外での実習機会(2~8週間、留学先は自ら選べる)を提供し、国際的視野を獲得する場を提供します。

学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価、コンピテンシーの項目群を学生が参照し、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価によって、包括的に評価します。各科目のコンピテンシー達成レベルはシラバス等に明示します。

学生によるコンピテンシーに基づくカリキュラム評価結果を活用し、カリキュラムの自己点検・評価を行います。内部質保証の維持、向上のため、第三者の視点を踏まえ、カリキュラムの自己点検・評価を定期的に行い、教育方法の改善につなげていきます。

### 3. ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)

医学部では、順天堂大学医学部の使命の下で策定された各年次のカリキュラムを履修し、かつ定められた基準に合格することによって、順天堂大学医学部のコンピテンシーを身に付け、次の資質・能力を修得した者に対して学士(医学)の学位を授与します。

ディプロマ・ポリシー	コンピテンシー
<p><b>I. 診療技能・患者ケア, 医学的知識</b></p> <p>科学的根拠に基づいた医療・医学研究を行うための基礎、臨床の医学的知識を有し、体系的に理解し説明できる。それを応用し、基本的な診察・手技を適切に実践できる。</p> <p><b>II. 医療安全</b></p> <p>医療安全の重要性を理解し、適切に実践できる。感染予防対策の適切な方法・プロセス、問題を起こしやすい状況とその対応を理解し実践できる。</p>	<p>1. 診療技能・患者ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 成人及び小児・高齢者の基本的な医療面接・身体診察と臨床手技を適切に実施できる。</li> <li>b. 診断・治療・全身管理に積極的に参加できる。</li> <li>c. 患者・家族の思いや苦しみを理解し最善の医療に参加できる。</li> <li>d. 病状説明・患者教育に参加できる。</li> </ul> <p>2. 医学的知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 各臓器の構造と機能を理解し、説明できる。</li> <li>b. 各臓器の異常に基づく病態や臨床症候について概説できる。</li> <li>c. 発達、成長、加齢に関する知識を有し、応用できる。</li> <li>d. 臨床推論により疾患を鑑別でき、診断に必要な検査と治療内容を計画できる。</li> <li>e. 基礎医学と臨床医学の知識を連携させて症状・疾患を理解できる。</li> <li>f. 最新のエビデンスに基づく医学・医療情報を理解・応用することができる。</li> </ul> <p>3. 医療安全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 正確な医療知識・技術が医療安全につながることを理解できる。</li> <li>b. インフォームド・コンセントを理解し実践できる。</li> <li>c. 個人情報の扱いの重要性を理解し、適切に管理・運用できる。</li> <li>d. 感染予防対策の適切な方法・プロセスを理解し、実践できる。</li> <li>e. 問題を起こしやすい状況とその対応を理解し、情報共有ができる。</li> <li>f. 自己の健康管理ができる。</li> </ul>

ディプロマ・ポリシー	コンピテンシー
<p><b>Ⅲ. チーム医療, コミュニケーション</b></p> <p>チーム医療や患者の抱える問題を理解し、医療チームの一員として適切に多職種と連携することができる。</p> <p>他者と信頼関係を構築することができ、良好なコミュニケーションがとれる。</p> <p><b>Ⅳ. 医療の社会性</b></p> <p>行動科学、社会医学、地域医療のシステム、プライマリ・ケアを理解したうえで、患者・国民のニーズを認識し、必要な医療と医療制度を概説できる。</p> <p><b>Ⅴ. 倫理とプロフェッショナリズム</b></p> <p>医の倫理・生命倫理、患者の権利・立場と心理を理解し、高い倫理観・適正な態度を身につけている。倫理・法律に反しない行動ができ、医療人・研究者としての責任感をもって行動できる。</p>	<p>4. チーム医療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 医療チームの一員として積極的に参加できる。</li> <li>b. 他職種の職務内容とチーム医療を理解し、必要な知識を有し、連携することができる。</li> <li>c. 患者の抱える問題を理解し、医療スタッフと情報交換できる。</li> </ul> <p>5. コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 一般社会人として信頼関係が構築でき、情報共有ができる。</li> <li>b. 医師や他の医療職種、患者、家族と良好なコミュニケーションがとれる。</li> <li>c. プレゼンテーション能力や人を指導・教える能力を有し、応用できる。</li> </ul> <p>6. 医療の社会性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 行動科学、社会医学を理解し、医療制度を概説できる。</li> <li>b. 患者・国民のニーズを理解し、必要な医療と医療制度を概説できる。</li> <li>c. 地域医療のシステム、現状、問題点、プライマリ・ケアの役割を理解できる。</li> </ul> <p>7. 倫理とプロフェッショナリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 医の倫理・生命倫理および患者の権利について理解し行動できる。</li> <li>b. 倫理・法律に反しない行動ができ、利益相反について理解できる。</li> <li>c. 患者の立場と心理を理解し、双方にとっての最善の結果が得られる医療を提案できる。</li> <li>d. 社会資源を使って育成されていることを認識し、医療人としての責任感をもって行動できる。</li> </ul>

ディプロマ・ポリシー	コンピテンシー
<p><b>VI. 自立的学習能力, 順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任</b></p> <p>順天堂大学で学んだ者として、生涯にわたってアクティブに自分の目標に向けた学習をする不断前進の態度・習慣を身につけ、医の歴史や健康に与える運動の影響を理解し、他を思いやり慈しむ心(学是「仁」)を持った行動ができる。</p> <p>グローバル化する国際社会において医学・医療の分野で国際的に活躍できる語学力、医療能力、未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養を有している。</p>	<p>8. 自立的学習能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 自分の目標に向けた学習ができる。</li> <li>b. 適切な情報収集ができ、活用できる。</li> <li>c. 後輩・同級生を指導することで自らも学ぶことができる。</li> <li>d. 医学研究に対する興味を高めることができる。</li> </ul> <p>9. 順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 順天堂大学で学んだ者として、思いやりを持った行動ができる(寮生活などの共同生活経験を含む)。</li> <li>b. 医の歴史を理解した上で、医学・医療の発展をめざすことができる。</li> <li>c. 健康に与える運動の影響を考慮した医療を提言できる。</li> <li>d. 国際的に活躍できる語学力、医療能力を身につける(TOEFL・IELTS・USMLE 対策、交換留学などを含む)。</li> </ul>

## 医学部での教育のあり方について・教員の責務と学生の義務

### 【ミッション】

- 1) 授業は、単に知識・技術の伝達ばかりではなく、教員と学生との直接的なコミュニケーションを通して、医師としての人間性を育成するための教育の場でもある。ベッドサイドでも、実習の場でも、教室においても当然そうである。
- 2) 教員には教育する責任があり、学生には履修義務がある。それがどうでもよい、来なくてもよいというのでは、学習の場としての大学の存在意義を自己否定するものである。特に、医学部学生の不勉強は、患者に迷惑をかける。
- 3) 学生を教育することは、教員自らの研究・診療活動能力を向上させるうえで最も重要である。
- 4) 学生の学習意識を PASSIVE なものから ACTIVE なものに変化させるよう、教員側が全教科を通じて努力することと、その手法を工夫することが重要である。学生も自ら学ぶ意識を堅持し、積極的な姿勢で勉学に臨むことは必須である。
- 5) 学生のモチベーションの向上を図り、それに基づく教育体制を整備することは、本学全体の教育のみならず研究や臨床における活動水準を高めることに繋がる。
- 6) 授業時間中に前回または当日の授業内容の理解度を問う試験を行い、出席をとる。同時に学生の授業に対する意見を聞くことの徹底（教務課にて用意されている「授業評価票」使用の徹底）を図る。また、教育者としての自己評価・他者評価を重視する。
- 7) 学部教育や臨床教育（BSL）においては、教授・前任准教授・准教授・講師・助教が学生に対して直接教育するが、それのみに止まらず大学に集う者全てが教育に関与すべきである。病院などの現場においては、『屋根瓦方式』による教育の重要性を認識することが重要である。これは教員のみには留まらない。学生も同級生・下級生に教えることによって知識の確認を行うべきである。

# 病院等での実習の心得

## 順天堂医院理念

順天堂の「天道に則り、自然の摂理に順う」精神で人々の生命を尊重し、人間としての尊厳および権利を守る。更に「不断前進」の精神で、創造的な改革を進め、医療人の育成および最善の医療の提供を目指す。

## 基本方針

1. 患者さん一人ひとりに、安全で根拠に基づく良質かつ高度な医療を提供する。
2. 患者さんと家族が満足できるサービスを提供する。
3. 患者さんが安心して快適な療養生活ができる環境を提供する。
4. 特定機能病院として、先進医療の開発・導入を行い、優れた医療技術を提供する。
5. 救急医療活動や在宅医療における役割を担う。更に災害時の拠点病院として地域医療に貢献する。
6. 省エネ、エコロジーを推進し、環境保全活動に努める。  
すべての医療従事者は、この実現のために取り組むものとする。

## 「患者さんの権利」

医療は患者さんと医療機関との十分な信頼関係で成り立っております。順天堂医院では、すべての患者さんに次の権利があると思料し、尊重した医療を行います。

1. 良質で安全な医療を平等に受ける権利があります。
2. 一人ひとりの人格や価値観などが尊重された医療を受ける権利があります。
3. ご自分の希望や意見を述べる権利があるとともに、希望しない医療を拒否する権利があります。
4. 理解しやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
5. 十分な説明と情報提供を受けた上で、治療方法などを自らの意思で選択する権利があります。
6. 診療の過程で得られた個人情報を守られる権利があります。
7. 患者さんが主治医（かかりつけ医）から勧められた治療を選択するにあたり、納得して治療を受けられるよう、セカンドオピニオンにより、主治医（かかりつけ医）以外の医師に意見を求める権利があります。

## 「患者さんへのお願い」

順天堂医院では、さまざまな医療を提供していますので、次のことを十分にご理解いただき、適切な医療の提供にご協力くださいますようお願いいたします。

1. 誤認防止のため、患者さんに氏名（フルネーム）および生月日を確認しています。
2. 治療上必要なルールは、お守りください。また、治療について不安を感じましたら、どんなことでもすぐにお知らせください。
3. すべての患者さんが適切な医療を受けられるよう配慮に努めています。他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
4. 治療を目的に、患者さんの姿や顔を撮影した場合には、当該映像も個人情報として適切に管理し、医療に関わる範囲でのみ使用いたします。
5. 当院では、防犯および安全管理上の理由により、院内における任意の場所にビデオカメラを設置しています。撮影された映像データは、防犯および安全管理上に問題がある場合に限り使用し、一定期間保管後破棄いたします。

## 医師の服装、みだしなみについてのマニュアル

医療現場では医師の服装、行動は患者、家族から見られている。  
患者から信頼感を得られる服装を心がける必要がある。

- 1) ケーシー型白衣着用の際には、下に無地または薄い色の半袖のシャツを着用する。
- 2) 白衣の下に着用するものは、清潔で不快感を与えないものとし、男性が上着型白衣を着用する際には、ネクタイを着用することが望ましい。
- 3) 緊急時を除き、手術着・検査着・スクラブを着用したまま当該部署以外に出てはならない。やむを得ない場合には手術着・検査着・スクラブの上に白衣を着用し、白衣の前ボタンは留める。
- 4) 薄手の黒色ストッキングは避ける。
- 5) 「おしゃれ」と「みだしなみ」は異なることを理解し、就業に相応しい頭髪、化粧を心がける。

## 医師・職員の服装、みだしなみについての心得

順天堂の歴史と伝統に恥じないように心掛けること。

- 1) 清潔で不快感を与えないこと。
- 2) 緊急時にも速やかに対処できるような動きやすい服装であること。
- 3) ネームプレートは必ずよく見える位置に着用すること。
- 4) 頭髪が肩にかかる場合には束ねたりまとめたりすること。
- 5) アクセサリーは控えること。
- 6) 化粧は清楚で品位のあるものとし、香りにも注意すること。
- 7) 白衣の前ボタンはきちんと留めること。
- 8) 白衣着用したまま、院外施設（コンビニ、レストランなど）へ立ち入らないこと。
- 9) 白衣の下に着用する服装は機能面を重視するが、ジーンズ等の作業着は控えること。
- 10) 素足・派手な柄のストッキング・靴下は避けること。また腫の出るような短い靴下も控えること。
- 11) 靴も機能面に優れたものとする。ブーツ、サンダル（クロックスを含む）、ハイヒールまた派手な色のものは控えること。



順天堂大学  
医学部長 殿

## 個人情報保護に関する誓約書

私は、大学の諸規則を遵守するとともに、指導教員その他病院関係者等の指示に従い、知り得た患者に関する情報および大学・病院関係者の個人情報を在学中のみならず卒業後も第三者へ漏洩、無断使用、持ち出しをしないことを誓約します。

年 月 日

学籍番号： \_\_\_\_\_

署 名： \_\_\_\_\_

順天堂大学  
医学部長 殿

## 学業成績の利用に関する同意書

順天堂大学では、学業成績に関する情報を、医学教育の質の向上、教育研究の目的のため使用します。その際には、個人の識別あるいは特定ができないようにするなど情報を適切に管理、運用いたします。

私は上記の順天堂大学における学業成績の取扱いについて同意します。

年 月 日

学籍番号： \_\_\_\_\_

署 名： \_\_\_\_\_



# 履歴書

年 月 日現在

ふりがな		印	写 真 (4cm×3cm) 写真の裏面に 氏名を記入
氏 名			
生年月日	年 月 日生 (満 歳)	男・女	
携帯電話番号	E-MAIL		
ふりがな		電話 ( )	
現住所 〒 -		FAX ( )	
ふりがな		電話 ( )	
連絡先〒 (現住所以外に連絡を希望する場合のみ記入)		FAX ( )	
年	月	学歴・職歴 (※学歴は高校入学から記入)	
(自己紹介／志望の理由 等)			

2024年度 M1開講科目 ナンバリング

分類	ナンバリング	科目名	
必修	IME 101	医療プロフェッショナリズム入門	
	IME 102	医療入門	
	IME 103	行動科学 I	
	RMC 100	医学研究入門 I	
	ENG 101	Practical English for TOEFL I	
	ENG 102	Practical English for TOEFL II	
	ENG 103	TOEFL・IELTS演習	
	SPH 101	スポーツと健康	
	CHM 101	ライフサイエンスのための化学	
	PHY 101	人体物理学	
	BIO 101	細胞生物学	
	MTH 101	統計解析への数学	
	MTH 102	データサイエンス基礎	
	INBM 030	組織細胞生物学	
	自然科学総合実習	CHM 111	(化学)定性分析
		CHM 112	(化学)生体物質の分離と定量の基礎
PHY 111		(物理)物理学入門	
PHY 112		(物理)ミクロの世界から	
BIO 111		(生物)顕微鏡観察	
BIO 112		(生物)カエルの解剖	
MTH 111		(数学)データサイエンス実践 I	
MTH 112		(数学)データサイエンス実践 II	
PBL	PBL 101	水と生命	
	PBL 102	法則と方程式	
	PBL 103	プログラミングとアルゴリズム	
	PBL 104	素粒子のαβγ	
	PBL 105	医療の思想と倫理	
	PBL 106	Medicine from a Global Perspective	
	PBL 109	生物の多様性	
	PBL 111	Can we trust diet studies?	
	PBL 112	ことばの力、the power of words	
	PBL 115	医事ニュースを読み解く統計学	
	PBL 116	健康を支える科学	
	PBL 117	錯覚錯視の原理と応用	
	PBL 118	Listening Skills: Development and Assessment	
	PBL 119	バイオマテリアルと医療	
自然科学系選択	BIO 090	Medical Biology in English	
	MTH 123	2変数の微分積分入門	
	PHY 123	相対論入門:時空とエネルギー	
	BIO 123	ヒューマンバイオロジー	
	CHM 123	分子の形	
	語学系選択	ENG 111	Academic English for TOEFL I
ENG 112		Academic English for TOEFL II	
ENG 113		Academic English for TOEFL III	
ENG 114		Academic English for TOEFL IV	
ENG 115		Academic English for TOEFL V	
ENG 116		Academic English for TOEFL VI	
ENG 117		Academic English for TOEFL VII	
ENG 121		TOEFL特別演習 I (ABC)	
ENG 122		TOEFL特別演習 II (CDE)	
ENG 123		TOEFL特別演習 III (ABC)	
ENG 124		TOEFL特別演習 IV (CDE)	
ENG 130		Introduction to ECFMG	
GER 101		ドイツ語 I	
GER 102		ドイツ語 II	
FRC 101		フランス語 I	
FRC 102		フランス語 II	
CHI 101		中国語 I	
CHI 102		中国語 II	
JPN 101		日本語リテラシー	
JPN 102		日本語アカデミックライティング	

分類	ナンバリング	科目名
人文社会科学系選択	HSB 101	コミュニケーション論
	HSB 105	生きる意志(倫理学)
	HSB 107	医療社会学
	HSB 108	医療の経営学
	HSB 109	医療行為と法
	HSB 110	文化の中の健康
自由選択	HSB 111	メディカル・ヒューマニティーズ
	ELE 101	新しい世界を拓いた人々
	ELE 102	知の統合
	RMC 110	医学研究入門 II
開講科目	RMC 120	科学研究のための基礎
	RMC 130	科学研究ゼミナール
	ELE 111	日本国憲法
	ELE 117	心理学
	ELE 128	文学

略の解説	IME	Introduction to Medicine
	RMC	Research, Medicine, and Career
	SPH	Sports and Health
	BIO	Biology
	CHM	Chemistry
	PHY	Physics
	MTH	Mathematics
	PBL	Problem Based Learning
	GER	German
	FRC	French
	CHI	Chinese
	JPN	Japanese
	HSB	Human, Society, and Health
ELE	Elective	
INBM	Integrative Basic Medicine	

2024年度 M2～M6 ナンバリング

【医学部2年次】

	ナンバリング説明		カリキュラム名称等	
基礎医学	INBM 201	INBM : Integrative Basic Medicine	ZoneA	組織学(各論)/神経解剖学
	INBM 202		ZoneB	生化学/発生/症例検討
	INBM 203		ZoneC	動物生理学/植物生理学/薬理学/症例検討
	INBM 204		ZoneD	感染・免疫/症例検討
	ANA 101	ANA:Anatomy	Unit 1	解剖学
体験実習等	PDBS 101	PDBS : Patient-Doctor & Basic Skills	基本手技	
	PDBS 110		救急医学実習	
	PDBS 120		医療安全から見た医療者のプロフェッショナリズム	
	PDBS 130		医療体験実習	
	PFR 101	PFR : Preparation For Research	医学研究 I	
PDBS 010	PDBS : Patient-Doctor & Basic Skills	OSCE運営補助		
語学	ENG 201	ENG : English	English	English for Medicine I

【医学部3年次】

	ナンバリング説明		カリキュラム名称等	
基礎医学	SMGH 101	SMGH : Social Medicine & Global Health	ZoneE	社会医学序論/疫学・統計学
	INBM 207	INBM : Integrative Basic Medicine	ZoneF	病理・病態/症例検討
	IRM 201	IRM : Introdction to Research Medicine	基礎ゼミナール	
臨床医学	INCM 301	INCM : Integrative Clinical Medicine	Group1	消化器・外科一般
	INCM 303		Group2	心臓・血管・呼吸・胸郭・縦隔
	INCM 305		Group3	腎・生殖・泌尿器
	INCM 306		Group4	脳神経・精神・心身・老年医学
	INCM 309		Group5	感覚器・運動
	INCM 302		Group6	内分泌・代謝・栄養・アレルギー・膠原病・免疫・血液
体験実習等	PDBS 210	PDBS : Patient-Doctor & Basic Skills	医療面接実習	
	PDBS 220		診察技法	
	PDBS 201		基本手技	
	PDBS 230		医療体験実習	
語学	ENG 301	ENG : English	English	English for Medicine II

【医学部4年次】

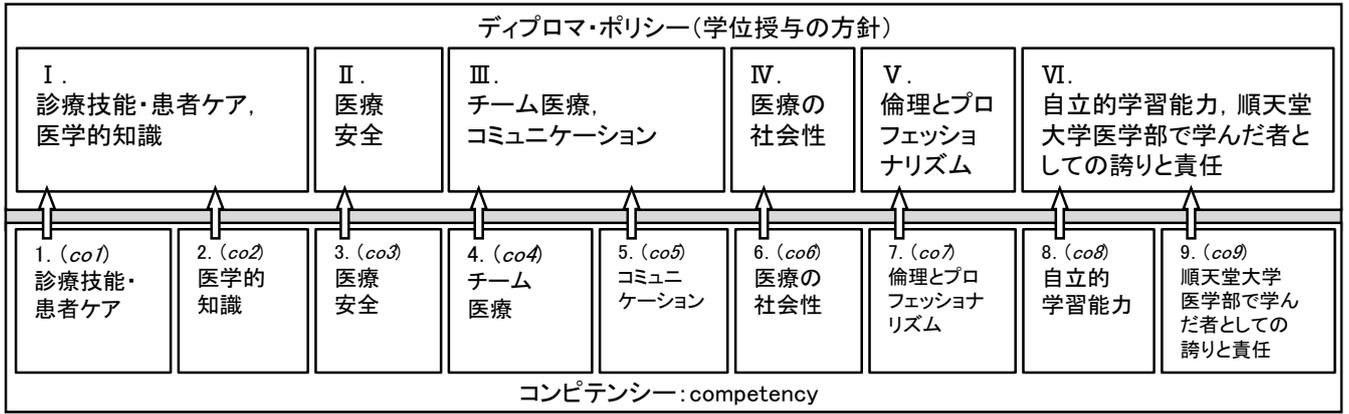
	ナンバリング説明		カリキュラム名称等	
臨床医学	INCM 311	INCM : Integrative Clinical Medicine	Group7	小児・周産期
	INCM 312		Group8	皮膚・頭頸部・感染症・中毒・災害・漢方
	INCM 300		Group9	臨床医学総論(症候論(臨床疫学・EBM)/感染症・感染制御/外科/救急・災害/腫瘍学・緩和医療/放射線/病理/臨床薬理/社会医学/倫理・医療安全/輸血/医療面接/AI)
行動科学・社会医学	SMGH 102	SMGH : Social Medicine & Global Health	行動科学Ⅱ・社会医学	
臨床実習	PDBS 310	PDBS : Patient-Doctor & Basic Skills	臨床実習前トレーニング	
	CBM 400番台	CBM: Clinical Bedside Medicine	M4 臨床コア実習	
語学	ENG 401	ENG : English	English	Clinical Skills for International Medicine

【医学部5年次】

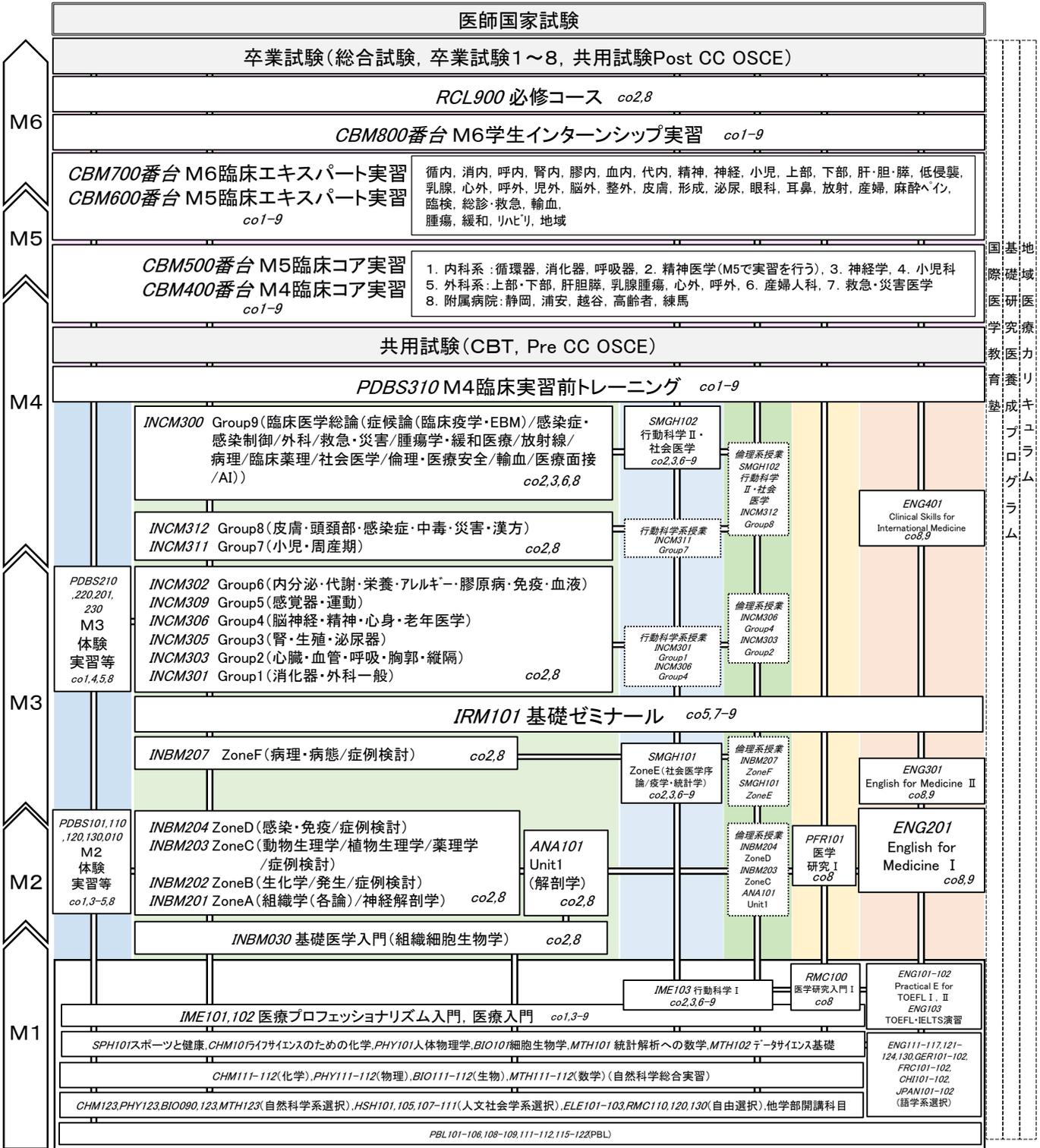
	ナンバリング説明		カリキュラム名称等	
臨床実習	CBM 500番台	CBM: Clinical Bedside Medicine	M5 臨床コア実習	
	CBM 600番台	CBM: Clinical Bedside Medicine	M5 臨床エキスパート実習	

【医学部6年次】

	ナンバリング説明		カリキュラム名称等	
臨床実習	CBM 700番台	CBM: Clinical Bedside Medicine	M6 臨床エキスパート実習	
	CBM 800番台	CBM: Clinical Bedside Medicine	学生インターンシップ実習(選択コース)	
必修講義	RCL 900	RCL: Required Clinical Lecture Series	必修コース	



(22)



# 医学部カリキュラム概略図（2024年度）

[前期]

学年 / 月	4月	5月	6月	7月	8月
1年次	入学式・入学式 オリエンテーション TOEFL試験 フレッシュバーンズキャンフ	医療プロフェッショナリズム入門	早期体験実習 病院見学	医療プロフェッショナリズム入門	前期試験週間 夏季休暇
		医療入門		医療入門	
2年次	新学期オリエンテーション	基礎医学 Zone A		Zone B	
		組織学 (各論) [実習]組織学	神経解剖学 [実習]脳解剖学	生化学/発生 [実習]生化学・分子生物学	Unit 1 中間試験 ZoneA 総論学再試験
3年次	新学期オリエンテーション	基礎医学 Zone E		基礎ゼミナール	
		社会医学序論/疫学・統計学 [実習]疫学・統計学	病理・病態 [実習]病理学総論	Zone F 総合試験 発表会	全体発表会
4年次	新学期オリエンテーション	臨床医学 Group7 小児・産産期	臨床医学 Group8 皮膚・頭頸部・感染症・ 中毒・災害・漢方	行動科学Ⅱ 社会医学 基本手技	Group9 臨床医学総論 (症候論 (臨床疫学・EBM) / 感染症・感染制御/外科/救急・災害/ 腫瘍学・緩和医療/放射線/病理/臨床薬理/ 社会医学/倫理・医療安全/輸血/医療面接/A)
		G7 総合試験	G8 総合試験	G9 総合試験	OSCE: CBT/自己学習
5年次	新学期オリエンテーション	M5 臨床コア実習			M5 臨床エキスパート実習
		(ローテーション⑥)	(ローテーション⑦)	(ローテーション⑧)	M4, M5臨床コア実習でローテーションしていない診療科を1年間かけてローテーションする。
6年次	新学期オリエンテーション	M6 臨床エキスパート実習	学生インターンシップ実習 (選択コース)		必修コース
		臨床エキスパート実習試験	期間 (第1クール) (第2クール) (第3クール) (第4クール)	臨床科での診療参加型実習	

初期臨床研修医  
大学院医学研究科

(医学部附属病院) 順天堂医院、静岡病院、浦安病院、練馬病院 / (その他)

【後期】

9月		10		11		12		1月		2		3月	
PBL・データサイエンス基礎	必修科目	医療プロフェッショナリズム入門 行動科学 Practical English for TOEFL I Practical English for TOEFL II TOEFL・IELTS演習 スポーツと健康 ライフサイエンスのための化学 人体物理学 細胞生物学 統計解析への数学		早期体験実習 Meet the patient 演習	医療プロフェッショナリズム入門 行動科学 Practical English for TOEFL I Practical English for TOEFL II TOEFL・IELTS演習 スポーツと健康 ライフサイエンスのための化学 人体物理学 細胞生物学 統計解析への数学		年末年始休暇	TOEFL試験	医療プロ	後期試験週間・追試験	基礎医学入門	組織細胞生物学 [実習]組織学	早期体験実習
	選択必修科目	自然科学総合実習			自然科学総合実習				基礎医学入門定期試験				
	選択科目	自然科学系、語学系 人文社会学系、自由選択科目			自然科学系、語学系 人文社会学系、自由選択科目				基礎医学入門定期試験 再試験				

PBL (Problem Based Learning) : 水と生命/法則と方程式/プログラミングとアルゴリズム/素粒子の $\alpha\beta\gamma$ /医療の思想と倫理/Medicine from a Global Perspective  
 生物の多様性/Can we trust diet studies?/ことばの力、the power of words/医事ニュースを読み解く統計学/健康を支える科学/錯覚錯視の原理と応用/Listening Skills: Development and Assessment  
 バイオマテリアルと医療/身近な毒との微妙な関係/Health Economics/Diversity in culture, language use, and language learning/患者さんから見た医療/AIと医療

Zone D (生化学) 総合試験		Zone C1 試験		Zone C2 試験		Zone D		医療体験実習
動物生理学/ 植物生理学/薬理学		動物生理学/ 植物生理学/薬理学		動物生理学/ 植物生理学/薬理学		感染・免疫		
[実習]生化学・分子生物学		[実習]生化学・分子生物学		[実習]生化学・分子生物学		[実習]微生物学/免疫学/寄生虫病学		
ZoneB (発生) 総合再試験	基礎医学 Unit 1 解剖学 [実習]人体解剖		ZoneB (生化学) 総合再試験	基本手技試験	Unit 1 総合再試験	ZoneD 総合試験	ZoneD 総合再試験	年末年始休暇
ZoneA 神経解剖 再試験	English (体験実習) 医学研究 I / OSCE運営補助 / 救急医学実習 / 医療安全から見た医療者のプロフェッショナリズム		ZoneC 総合試験	Unit 1 総合再試験	English	English 最終試験	基礎医学研究医選択コース	
基本手技		基本手技再試験		基本手技再試験		連携 迅速式 (未定)		

臨床医学Group 1 消化器・外科一般		Group 2 心臓・血管・呼吸 胸郭・縦隔		Group 3 腎・生殖・泌尿		Group 4 脳神経・精神・ 心身・老年医学		Group 5 感覚器・運動		Group 6 内分泌・代謝・栄養・ アレルギー・膠原病・免疫・ 血液	
G1 総合試験	G2 総合試験	G3 総合試験	医療体験実習	医療面接実習	G4 総合試験	G5 総合試験	G6 総合試験	G4 総合再試験	G5 総合再試験	G6 総合再試験	
診察技法	診察技法	診察技法	G2 総合再試験	G3 総合再試験	基本手技再試験	診察技法	診察技法	診察技法	診察技法	診察技法	

臨床実習前 トレーニング		M4 臨床コア実習			M4 臨床コア実習		
CBT	OSCE 再試験	(ローテーション①)	(ローテーション②)	(ローテーション③)	(ローテーション④)	(ローテーション⑤)	実務 研修 コア 試験
		1. 内科系：循環器、消化器、呼吸器 2. 精神医学 (M5で実習を行う) 3. 神経学 4. 小児科			5. 外科系：上部・下部消化管、肝胆膵、 乳腺・内分泌、心臓血管外科学、 呼吸器外科、低侵襲外科 6. 産婦人科 7. 救急・災害医学 8. 附属病院：静岡、浦安、越谷、高齢者、練馬		
臨床実習前 トレーニング		M4 臨床コア実習			M4 臨床コア実習		

M5 臨床エキスパート実習		M5 臨床エキスパート実習	
(診療科)		BSL 総合 試験	
循環内、消内、呼内、腎内、膵内、血内、代内、精神、神経、小児、上部、下部、肝・胆・膵、低侵襲、乳腺、心外、呼外、児外、脳外、整外、皮膚、形成、泌尿、眼科、耳鼻、放射、産婦、麻酔A/B、臨床、総合・救急、輸血、腫瘍、緩和、リハビリ、地域		BSL 総合 試験	
選択実習、海外実習		選択実習、海外実習	
海外実習(インターン)	臨床実習前 (コア) 試験再試験	海外実習前トレーニング (診断法、プレゼンテーション 等)	BSL 総合 試験

卒業試験期間				卒業判定	自己学習期間 (学習支援)	自己学習期間 (学習支援)	医師国家試験	卒業証書授与式
卒業試験1： 消内/上部/下部/肝胆膵/低侵襲/乳腺	卒業試験5： 皮膚/眼/耳鼻/整形/形成	卒業試験A 卒業補助 試験B	語学試験					
卒業試験2： 精神/神経/脳外/リハ	卒業試験6： 腎内/泌尿/代内/膠原病	卒業補助 試験C	OSCE 最終 試験					
卒業試験3： 循環内/呼内/心外/呼外	卒業試験7： 小児/児外/産婦人科	卒業補助 試験D						
卒業試験4： 血液/産婦人科/臨床検査/人体病理/麻酔A/B/緩和	卒業試験8： 総合診療/放射/公衆衛生/衛生/法医/救急	総合試験 再試験						

## M1 授業の目的と内容について

本学では、以下の観点からM1の一般教養教育ならびに基礎医学入門の授業を行う。

<目的>

- I 一般教養教育は、6年一貫の医学教育の重要な一部であり、医師として、社会人として不可欠な感性・人間性を養うものである。
- II M2以降の基礎・臨床医学へつながる、根本的な科学的方法と基礎医学知識を習得する。
- III 基礎的な医学の知識の習得を開始して、M2以降の基礎・臨床医学学習への期待感を高くもつ。
- IV PASSIVEな学習姿勢からACTIVEな学習姿勢へ転換する。

<一般教養教育の内容>

M1の4月～12月および1月にかけて、さくらキャンパスにおいて行う。

① 必修科目は次の13科目である。

語学系科目：

- 1. Practical English for TOEFL I
- 2. Practical English for TOEFL II
- 3. TOEFL・IELTS 演習

医学系科目：

- 4. 医療プロフェッショナリズム入門
- 5. 医療入門

6. 行動科学 I
7. 医学研究入門 I
8. スポーツと健康

自然科学系科目：

9. ライフサイエンスのための化学
10. 人体物理学
11. 細胞生物学
12. 統計解析への数学
13. データサイエンス基礎

- ② 選択必修科目は、自然科学総合実習の 8 科目の中から 6 科目以上、PBL から 1 科目を選択する。
- ③ 選択科目については、自然科学系、語学系、人文社会学系、自由選択科目から合計 11 科目以上を選択する。スポーツ健康科学部開講科目の選択履修も可能である。

<基礎医学入門の内容>

M1 の 2 月から 3 月にかけて、本郷・お茶の水キャンパスにおいて次の必修 1 科目を行う。

1. 組織細胞生物学

# 履修に関する基本事項について

## 1. 履修方法について

- ① 学年で学習する授業科目は、毎年度当初に当該学年のオリエンテーション時に履修要項等を配布する。
- ② 科目の学習にあたっては履修要項を利用する。
- ③ 一般教養（1 学年の 4 月～12 月および 1 月）の科目については、必修、選択必修、選択の各科目について、履修申請を指定の期日に行う。また、一般教養の科目における履修科目数は、34 科目を上限とする。
- ④ 基礎医学入門（1 学年の 2 月・3 月）の科目については、すべて必修科目のため履修申請の必要はない。

## 2. 一般教養の科目について

一般教養は、4 月から 8 月にかけての前期と、9 月～12 月および 1 月にかけての後期がある。必修科目、選択必修科目、選択科目があり、科目によってはクラスを分けて履修する授業がある。クラス分けの方法は、原則次の 3 通り。

イ. 学生番号によるクラス分け（自然科学総合実習他）

前番 }  
後番 } 入学者を番号順に前・後半の 2 グループに分け、前半を前番、後半を後番とする。

ロ. 学生の選択によるクラス分け

ハ. TOEFL テストによるクラス分け

### （1）履修登録について

- ① 履修を希望する一般教養科目は、すべて履修登録すること。履修登録を行わないで受講しても評価は受けられない。
- ② 履修登録は、前期授業開始前に、後期開講科目も含めて登録する。
- ③ 後期授業開始前に、後期開講科目の履修登録の修正（科目の追加・削除）を行う。ただし、科目によっては履修制限があり、履修登録できない科目があるので、注意する。
- ④ 履修制限がかかる科目があるので、必ず履修条件に合致するかを確認し、履修登録を行う。履修条件に合致しない場合、いかなる事由があろうとも履修することはできない。
- ⑤ 履修登録手続は、ウェブ（Juntendo Passport）にて行う。
- ⑥ 前期登録科目の変更は、前期授業開始後、所定期間内に限り認められる。
- ⑦ 後期開講科目の変更は、後期授業開始後、所定期間内に限り認められる。

⑧ 前期・後期とも仮登録期間であっても、授業に出席しなければ欠席扱いとなるので注意する。

## (2) 必修・選択必修科目について

① 必修科目 13 科目 (ただし、TOEFL 演習については、この科目の定期試験に合格すると同時に、2 回の TOEFL ITP と 1 回の TOEFL iBT の受験は必修とし、2 回目の TOEFL ITP で 475 点以上、または TOEFL iBT で 55 点以上を取得しなければならない。)

② 選択必修科目

イ) 自然科学総合実習

化学分野 (「定性分析」・「生体物質の分離と定量の基礎」、物理分野 (「物理学入門」・「ミクロの世界から」、生物分野 (「顕微鏡観察」・「カエルの解剖」、数学分野 (「データサイエンス実践 I」・「データサイエンス実践 II」) のそれぞれの分野から 1 科目以上、計 6 科目以上を選択する。

なお、本学学力入試にて物理を受験しなかった者、およびセンター利用で物理を高校で履修しなかった者は、「物理学入門」を必須とする。物理受験者および高校で物理を履修した者は、「ミクロの世界から」を必須とする。

注：必要最低履修科目数を超えて履修した科目数については、選択科目としてカウントすることができない。

ロ) PBL：9 月を中心に実施される次の 19 科目の中から 1 科目を選択する。

「水と生命」、「法則と方程式」、「プログラミングとアルゴリズム」、「素粒子の  $\alpha \beta \gamma$ 」、「医療の思想と倫理」、「Medicine from a Global Perspective」、「生物の多様性」、「Can we trust diet studies?」、「ことばの力、the power of words」、「医事ニュースを読み解く統計学」、「健康を支える科学」、「錯覚錯視の原理と応用」、「Listening Skills: Development and Assessment」、「バイオマテリアルと医療」、「身近な毒との微妙な関係」、「Health Economics」 「Diversity in culture, language use, and language learning」、「患者さんから見た医療」、「AI と医療」

## (3) 選択科目について

① 進級条件は、自然科学系科目から 1 科目以上、語学系科目から 4 科目以上、人文社会学系科目から 2 科目以上を履修し、トータル 11 科目以上の選択科目に合格すること。従って、 $11 - (1+4+2) = 4$  科目は完全に自分の興味ある分野の講義を自らの責任において選択することとなる。

② 選択科目における成績は、成績の良かった上位 11 科目の合計をもって評価される。従って、興味のある科目を数多く選択しても不利にならないような配慮をしている。

③ 同一時限に同時開講されている科目を複数選択することはできない。

④ 前期、後期の選択科目の配分については、各自の選択に任されるが、十分注意して余裕をもって選択科目を決めること。

- ⑤ 「Academic English for TOEFL」は、1科目以上の履修選択が望ましい。
- ⑥ 「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」は各外国語科目のⅠの講義を「合格」しているか、各外国語の外部検定試験に合格していない場合は履修できない。また、各外国語科目のⅡの講義を含めて進級要件である語学系選択科目数（4科目）を満たす場合には、前期成績（Ⅰの講義の成績）によって履修登録を追加修正する必要があることに十分留意すること。また、各外国語科目の該当外部検定試験を受験することが必要となっている。検定試験の受験料は自己負担となる。

#### （４）評価方法について

- ① 前期および後期の学期ごとに期末試験を受験する。出席日数が 2/3 に満たない場合は受験資格が認められない。合否判定には、出席状況、臨時試験やレポート成績、勉強態度等も加味されるので、日頃の学習態度にも万全を期すこと。前期から後期にまたがる科目に対しては、前期と後期を総合して合否を判定する。
- ② 自然科学総合実習、PBLなどは当該授業のすべてに出席することを原則とする。授業時間内あるいは終了時に実技、レポート、試験等により判定する。
- ③ 一般教養科目における学業評価と評点およびGP（GPA\*を算出するための基礎点）の関係は、次の通りとする。

\* GPA（Grade Point Average）：

履修科目の評価に単位数を加味した加重平均値のことで、設定された算出基準・計算式で算出される。単に進級要件単位を取得するだけでなく、当該単位がどのような評価を伴うものであるかを可視化することにより、個々の学修の質をより高めることを目的とする。

判定	評価	評点	GP	内容
合格	S	100点～90点	4	到達目標を十分に達成し、極めて優秀である。
	A	89点～80点	3	到達目標を十分に達成している。
	B	79点～70点	2	到達目標を相応に達成している。
	C	69点～60点	1	到達目標の最低限は満たしている。
不合格	D	59点～0点	0	到達目標の最低限の水準を満たしていない。
失格	失格(G)	/	—	全授業数の3分の1を超える欠席の場合 試験を放棄した場合（未受験および受験資格なし）

※失格(G)（「/」）はGPA算出の対象外となる。

## 【GPA算出計算式】

$$\text{GPA} = \frac{\begin{array}{|c|} \hline \text{Sの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 4 \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{Aの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 3 \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{Bの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 2 \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{Cの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 1 \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{Dの} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 0 \\ \hline \end{array}}{\text{履修単位(科目)数}}$$

- ④ 「不合格」と評価された一般教養科目は、再試験を受験することができるが、受験可能な上限科目数は4科目である。再試験の最高評点は60点となる。

なお、他学部開講科目および次の科目については再試験を実施しない。

- 1) 自然科学総合実習
- 2) PBL
- 3) 自由選択科目のうち

「新しい世界を拓いた人々」、「知の統合」、「科学研究のための基礎」、「科学研究ゼミナール」

※「/」と評価された科目も再試験は行わない。

### 3. 基礎医学入門の科目について

基礎医学入門は、2月から3月にかけての期間に1科目の必修科目を行う。

#### (1) 履修登録について

基礎医学入門1科目は、履修登録の必要はない。(1.④を参照)

#### (2) 評価方法について

- ① 基礎医学入門1科目については、同日に行われる各科目の定期試験を受験する。各科目の講義出席回数が全講義回数 $\frac{2}{3}$ に満たない場合または実習すべてに出席していない場合は、その科目の受験資格が認められない。すべての実習と一部の授業に全員が出席すること(詳細はM1カリキュラム表を参照)。各科目の合否判定には、出席状況、プレテスト・ポストテスト、レポート・スケッチ等の成績や勉学態度等も加味されるので、日頃の学習態度にも万全を期すこと。
- ② 基礎医学入門1科目の定期試験については合格または不合格と評価される。不合格科目については、その科目の定期試

験再試験を課す。各科目の定期試験再試験の判定は教務委員会で審議する。

- ③ 基礎医学入門科目における学業評価と評点および GP の関係は、次の通りとする。

判定	評価	評点	GP	備考
合格	S	100点～90点	4	—
	A	89点～80点	3	
	B	79点～70点	2	
	C	69点～60点	1	
不合格	D	59点～0点	0	
失格	失格(G)	/	—	全授業数の3分の1を超える欠席の場合 試験を放棄した場合（未受験および受験資格なし）

※失格(G)（「/」）は GPA 算出の対象外となる。

【GPA算出計算式】

$$\text{GPA} = \frac{\boxed{\text{Sの修得}} \times 4 + \boxed{\text{Aの修得}} \times 3 + \boxed{\text{Bの修得}} \times 2 + \boxed{\text{Cの修得}} \times 1 + \boxed{\text{Dの}} \times 0}{\text{履修単位数}}$$

4. 授業欠席の取り扱いについて

- ① 感染性疾患（新型コロナウイルス、インフルエンザ、マイコプラズマ感染症、感染性胃腸炎、流行性角結膜炎等）の場合は、院内規定に従い出席停止となる。欠席届と診断書の提出が必須となる。欠席届の様式は、JUNTND PASSPORT(J-PASS)からダウンロードして使用し診断書を添付して、科目責任者（あるいは科目担当者）・担任教員・教務課にメールにて提出する。必要書類が認められた場合、出席率は欠席した授業数を分母と分子から除外して算出する。保護者が作成した診断書の提出は原則認めない。
- ② 体調不良等やむを得ない理由で、出席必須授業（オリエンテーション・講義・実習）を欠席する場合には、事前に教務課に連絡し、『欠席届』を提出すること。
- ③ 『欠席届』は、体調回復後速やかに提出することを原則とするが、遅くとも当該科目の講義等がおこなわれる最終日の 17:00

までには提出すること。体調不良等やむを得ない理由で、大学に来ることができず『欠席届』を提出できない場合は、教務課まで事前に連絡をすること。

- ④ 特別な理由なくオリエンテーション・実習を欠席した場合は当該授業にかかわる試験の受験を認めないか「0点」となる。著しい遅刻も同様の扱いとなる。遅刻・欠席をする場合には、事前に教務課に連絡し、復学後に『欠席届』を提出すること。
- ⑤ 感染性疾患ではない体調不良や疾病による欠席については、個々の事情を勘案して教育的見地から対応する。

## 5. 試験に関する注意事項について

- ① 試験は、授業への2/3以上の出席で受験することができる。実習が行われる科目については、講義出席の受験資格と併せて、実習のすべてに出席することが受験資格である。
- ② 学生証のない者および授業料未納の者は、試験場に入場できない。
- ③ 試験場では、必要以外の物品を机の上に置くことができない。ただし、携帯電話、モバイル機器等の扱いはその都度、指示に従うこと。また、一切の物品の貸借はできない。
- ④ 試験開始後30分以上経過したときは、試験場に入場できない。また、30分以内の退場もできない。
- ⑤ 試験中不正行為をなしたと認められた者に対しては、事情の如何を問わず直ちに退場を命じ、所要の処置をとる。下記の「試験中不正行為者に対する処置について」を参照。
- ⑥ 事故又はやむを得ぬ事情のため受験できなかった場合は、追試験を受験することができる。ただし、イ・ロの手順で申請を行わなければならない。行わなかった場合は追試験の対象外となるので、十分注意すること。
  - イ. 原則、当該試験終了までに教務課に必ず連絡すること。
  - ロ. 追試験申請期間内に病気の場合は診断書を、その他の場合は事由を証明する書類を添付し、欠席届を提出した上で、欠席理由が正当と認められれば追試験を受験することができる。口頭あるいは電話等での連絡では追試験を受験することはできない。  
また、病気（特に感染症）の場合、教務課に診断名を速やかに報告すること。
- ⑦ 基礎医学入門定期試験の追試験は、定期試験再試験をもってこれに代える。
- ⑧ その他の必要事項は、一般教養（前期・後期）期間はウェブ（Juntendo Passport）にて、基礎医学入門期間は掲示にて公示する。

## 6. 試験中不正行為に対する処置について

- ① 試験中試験監督者が、学生不正行為を発見して、その事実を確認したときは、その学生を試験場外に退出させる。
- ② 試験で不正行為を行ったものは、厳正な処分を課す。
- ③ 不正行為を行った学生の取扱いは、医学部長・教務委員長・学生部長・医学部一般教育協議会教員等により、検討を行う。
- ④ 試験終了後においても、当該科目担当者が不正行為があったと判断し、その事実を確認したときは、同様の処置を検討する。

## 7. 剽窃に関する対応

### 1. Turnitin\*を用いた学生自身による類似性チェック

- 1) 担当教員が類似性チェックをを求める際は、学生へ課題レポート提出を求める通達に Turnitin による類似性確認レポート（以下、類似性確認レポートと称する）を添付すること及び、類似性の許容範囲について明示する。
- 2) Turnitin マニュアル(別資料)に従って学生は類似性チェックを行い、判定を参考に課題レポートを修正する。最終的な類似性確認レポートを添付して、課題を提出する。

### 2. 提出された課題レポートの評価

- 1) 類似性の許容範囲については、課題内容に基づいて担当教員が判断する。
- 2) ①担当教員が類似性確認レポートの添付を指示した場合  
課題レポートとともに類似性確認レポートを評価し、許容範囲を超えた類似性を有すると判断した場合には、オーガナイザーに「剽窃の疑い」を報告する。  
②担当教員が類似性確認レポートの添付を指示しなかった場合  
担当教員が剽窃の強い懸念を認めた際は、提出を求めた同一の課題レポートをすべて Turnitin を用いて、類似性チェックを行ったうえで、許容範囲を超えた類似性を有すると判断した場合には、オーガナイザーに「剽窃の疑い」を報告する。
- 3) 「剽窃の疑い」と報告を受けたオーガナイザーは、類似性確認レポートを評価し、許容範囲を超えた類似性を有すると判断した場合は、剽窃ありと判定する。

### 3. 剽窃ありと判定した際の対応

担当教員の判断により、以下 1)①または②、いずれかの対応をとる。

- 1) ①教育的指導により学生に学修を促す対応を取る場合  
剽窃ありと判定した課題レポートを担当教員およびオーガナイザーが、学生を個別に指導して、再提出を求める。学生に指導を行った際、学生の応答にアンプロフェッショナルな態度が見られた場合には、その状況を記録してオーガナイザーに報告し、教務委員会に提出する。  
②課題レポートの提出をもって即座に成績評価を行う場合  
剽窃ありという判定に対してオーガナイザーは当該全体科目の評価点を0とし、「剽窃あり」を付記し経緯について記載した剽窃報告と類似性確認レポートを教務委員会に提出する。
- 2) 最終的な評価において剽窃と判定されたときには、オーガナイザーが当該学生に伝え、設定した疑義照会の締切（概ね7日間）を説明する。

### 4. 学生からの疑義照会（剽窃行為と判定された学生が成績評価に納得できない時）への対応

疑義照会を希望する学生は、オーガナイザーが設定した締切までに、書面をもって教務委員長に疑義照会の申し立てを行う。

## 5. 剽窃の認定について

- 1) 剽窃報告を受けた教務委員会は、疑義照会の締切後に剽窃について審議し、承認あるいは非承認を決定する。
- 2) 教務委員会において剽窃が承認された場合は、当該科目全体の評価点を0とする。
- 3) 教務委員会において剽窃が非承認であった場合は、教務委員長からオーガナイザーに類似性に関して、再度評価することを求める。

※「Turnitin」(ターンイットイン)・・・学生から提出されるレポートや論文の内容を、独自のデータベースと照合し、“既存情報と、どの文章がどれだけ似ているか”という類似性をすばやく可視化してくれるオンラインツール。

# 疑義申立文書案

年 月 日

教務委員会委員長殿

医学部 年

学生番号

氏 名

剽窃行為の判定に関する疑義申立

今回、提出した課題レポートにおいて「剽窃」という判定がなされたことについて、疑義申立致します。

1. 対象となった課題：

2. 疑義申し立て理由：

(36)

\*本申立書に、提出した課題レポートのコピーと Turnitin を用いた類似性確認レポートを添付して提出

## 2024年度 医学部1年開講科目

分類	授業科目名	区分	進級要件
必修	医療プロフェッショナルリズム入門	必修	14科目合格すること  *1 科目合格に加え、TOEFL ITP475点以上、またはTOEFL iBT555点以上取得すること。  <iBT受験の必修化>
	医療入門	必修	
	行動科学 I	必修	
	医学研究入門 I	必修	
	Practical English for TOEFL I	必修	
	Practical English for TOEFL II	必修	
	TOEFL・IELTS演習 *1	必修	
	スポーツと健康	必修	
	ライフサイエンスのための化学	必修	
	人体物理学	必修	
	細胞生物学	必修	
	統計解析への数学	必修	
	データサイエンス基礎	必修	
	基礎医学入門 組織細胞生物学	必修	
自然科学総合実習	(化学) 定性分析	選択必修	化学、物理、生物、数学の各分野から1科目以上、計6科目以上を選択し合格すること  *2 入試にて物理未受験者「物理学入門」必須 入試にて物理受験者「ミクロの世界から」必須  *3 必要科目数を越えた分は、選択科目としてカウントすることができない。
	(化学) 生体物質の分離と定量の基礎	選択必修	
	(物理) 物理学入門	選択必修	
	(物理) ミクロの世界から	選択必修	
	(生物) 顕微鏡観察	選択必修	
	(生物) カエルの解剖	選択必修	
	(数学) データサイエンス実践 I	選択必修	
	(数学) データサイエンス実践 II	選択必修	
PBL	水と生命	選択必修	1科目を選択し合格すること
	法則と方程式	選択必修	
	プログラミングとアルゴリズム	選択必修	
	素粒子の $\alpha$ $\beta$ $\gamma$	選択必修	
	医療の思想と倫理	選択必修	
	Medicine from a Global Perspective	選択必修	
	生物の多様性	選択必修	
	Can we trust diet studies?	選択必修	
	ことばの力、the power of words	選択必修	
	医事ニュースを読み解く統計学	選択必修	
	健康を支える科学	選択必修	
	錯覚錯視の原理と応用	選択必修	
	Listening Skills: Development and Assessment	選択必修	
	バイオマテリアルと医療	選択必修	
	身近な毒との微妙な関係	選択必修	
	Health Economics	選択必修	
	Diversity in culture, language use, and language learning	選択必修	
患者さんから見た医療	選択必修		
AIと医療	選択必修		
自然科学系選択	Medical Biology in English	選択	自然科学系から1科目以上選択し合格すること
	2変数の微分積分入門	選択	
	相対論入門：時空とエネルギー	選択	
	ヒューマンバイオロジー	選択	
	分子の形	選択	
語学系選択	Academic English for TOEFL I ~ Photography ~	選択	語学系から4科目以上選択し合格すること  *4 「Academic English for TOEFL VI」は、1科目以上の履修選択が望ましい。
	Academic English for TOEFL II ~ The Origins of Medicine ~	選択	
	Academic English for TOEFL III ~ Music and Drama Performance ~	選択	
	Academic English for TOEFL IV ~ Global Media Literacy ~	選択	
	Academic English for TOEFL V ~ Patient Insights ~	選択	
	Academic English for TOEFL VI ~ Medical Anthropology and Ethnomedicine ~	選択	
	Academic English for TOEFL VII ~ Social Issues Film/Documentaries ~	選択	
	TOEFL特別演習 I (ABC)	選択	
	TOEFL特別演習 II (CDE)	選択	
	TOEFL特別演習 III (ABC)	選択	
	TOEFL特別演習 IV (CDE)	選択	
	Introduction to ECFMG	選択	

分類	授業科目名	区分	進級要件
語学系選択	ドイツ語 I	選択	*5ドイツ語・フランス語・中国語のIIの講義は、「I」の講義を「合格」していない場合は、履修できない。  *6「日本語リテラシー」、「日本語アカデミックライティング」は留学生、帰国生などを主な対象とする。
	ドイツ語 II	選択	
	フランス語 I	選択	
	フランス語 II	選択	
	中国語 I	選択	
	中国語 II	選択	
人文社会学系選択	日本語リテラシー	選択	人文社会学系から2科目以上選択し合格すること
	日本語アカデミックライティング	選択	
	コミュニケーション論	選択	
	生きる意志 (倫理学)	選択	
	医療社会学	選択	
	医療の経営学	選択	
	医療行為と法	選択	
文化の中の健康	選択		
自由選択	メディカル・ヒューマニティーズ	選択	選択科目としてカウント可
	新しい世界を拓いた人々	選択	
	知の統合	選択	
	医学研究入門 II	選択	
開講科目	科学研究のための基礎	選択	人文社会学系選択科目としてカウント可
	科学研究ゼミナール	選択	
	日本国憲法	選択	
	心理学	選択	
	文学	選択	

### ■ 進級要件

#### 【1】一般教養カリキュラム

分類・区分	科目数	その他・要件
必修科目	13	
選択必修科目 (自然科学総合実習)	6	化学、物理、生物、数学の各分野から1科目以上
選択必修科目 (PBL)	1	
選択科目	11以上	自然科学系1科目以上 語学系4科目以上 人文社会学系2科目以上
<b>小計</b>	<b>31以上</b>	

※一般教養カリキュラムの履修科目数は、**34科目**を上限とする。

#### 【2】基礎医学入門

分類・区分	科目数	その他・要件
必修科目	1	

医学部1年カリキュラム全体 (【1】 + 【2】)

分類・区分	科目数	その他・要件
<b>合計</b>	<b>32以上</b>	

2024(令和6)年度 M1カリキュラム表

2024(令和6)

Main curriculum table with columns for month, day, week, and course details. Includes sections for '前期授業期間(さくら)', '試験', 'PBL', '後期授業期間(さくら)', '授業', '試験', and '基礎医学入門(本郷)'. Rows are organized by month (月) and day (日).

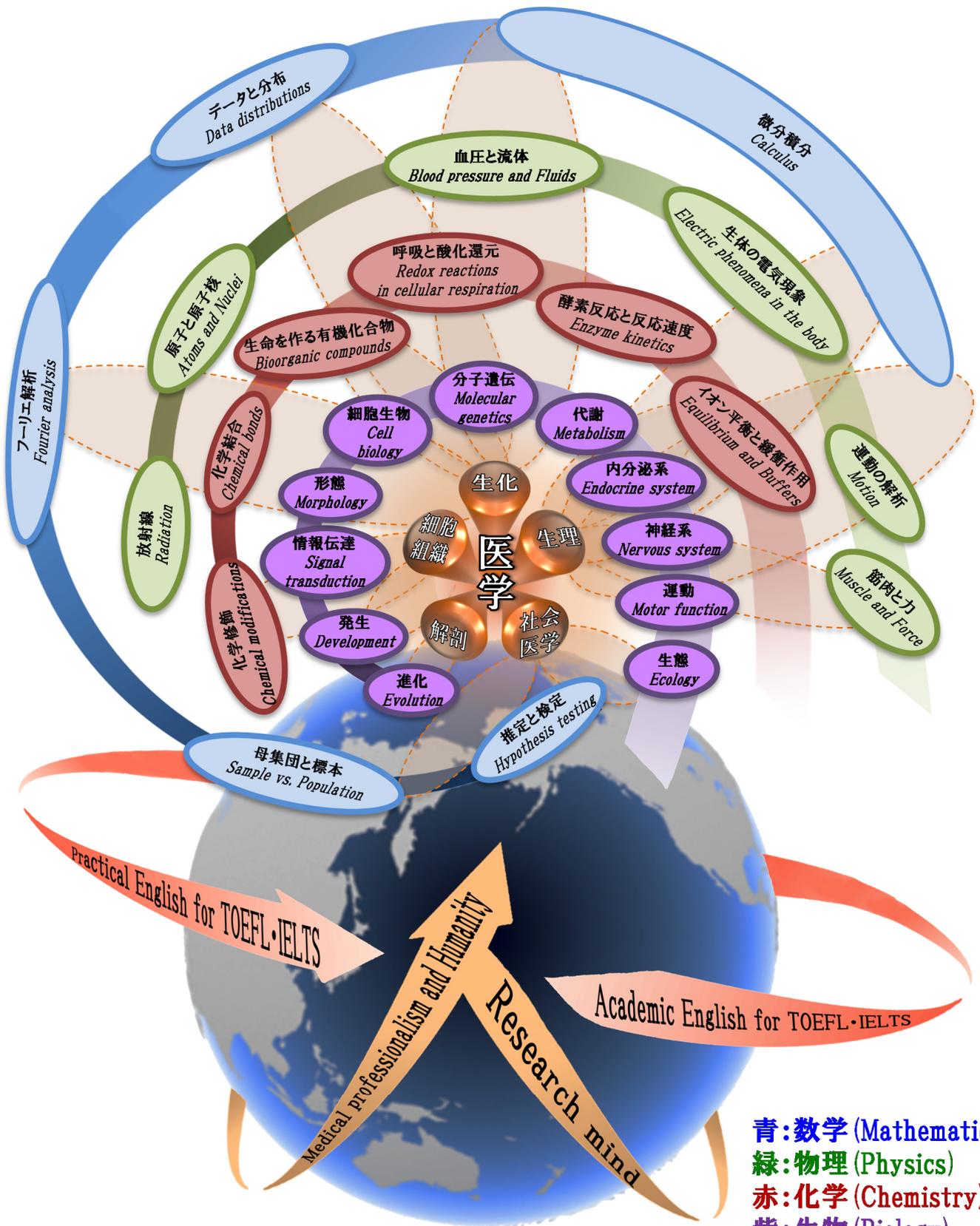
- 一般教育カリキュラム(さくら)
○入寮式 4/4(木)
○入学式 4/5(金)
○新入生キャンパス(FC) 4/20(土)~4/21(日)
○TOEFL試験(ITP)
-前期 4/11(木)1-2時限
-後期 1/9(木)1-2時限
○病院見学 6/18(火)
○多職種連携プログラム 8/31(土)
○PBL日程 9/2(月)~9/13(金)
○Meet the patient 実習 11/18(月)~11/22(金)

- 変則授業
【前期】
月曜授業実施 5/25(土)、6/15(土)
火曜授業実施 7/6(土)
【後期】
月曜授業実施 9/19(木)、1/8(水)、1/14(火)
○試験日程
-前期試験 7/23(火)~7/29(月)
-前期追試験 7/30(火)・7/31(水)
-後期試験 1/15(水)~1/21(火)
-後期追試験 1/22(水)~1/24(金)
-再試験 2/1(土)、2/15(土)
○補講日程
-前期 7/20(土)
-後期 1/10(金)

- 時間割(さくら)
1時限 8:30~10:10
2時限 10:20~12:00
3時限 12:50~14:30
4時限 14:40~16:20
5時限 16:30~18:10

- 基礎医学入門(本郷)
○時間割(本郷)
1時限 9:00~9:45
2時限 9:50~10:35
3時限 10:45~11:30
4時限 11:35~12:20
5時限 13:30~14:15
6時限 14:20~15:05
7時限 15:15~16:00
8時限 16:05~16:50
授業時間にPretest・Posttestが実施される。
組=組織細胞学

# 一般教育と医学への橋渡しイメージ図



青:数学 (Mathematics)  
 緑:物理 (Physics)  
 赤:化学 (Chemistry)  
 紫:生物 (Biology)  
 橙:英語 (English)

科目名	科目コード	単位数	責任者
基礎医学入門 組織細胞生物学	INBM 030	5 (基礎医学入門 全体)	神経生物学・形態学講座 小池 正人
学習内容・概要			
<p>《統合カリキュラムにおける組織細胞生物学の位置づけ》 解剖学は大きくマクロレベルの肉眼解剖学(骨学を含む)、ミクロレベルの組織学(顕微解剖学)に大別される。さらに細胞生物学、(中枢)神経系のマクロ・ミクロレベルを統合した脳(神経)解剖学、発生学も解剖学に含まれる。本学では2つの解剖学担当講座がこれらを分担して担当している。M1基礎医学入門では骨学と組織細胞生物学(細胞生物学+組織学総論)、M2ZoneAでは組織学各論と脳解剖学、Unit1では肉眼解剖学、ZoneBでは発生学を学習する。組織染色法や観察技術については組織学実習に加えて、医学研究Iにおいて学習する。</p> <p>人体のミクロレベルの解剖学である組織学は織物に例えると総論の「縦糸」と各論の「横糸」からなり、人体のミクロレベルの構造を理解するためにはどちらも必須である。組織細胞生物学では総論として人体を構成する上皮、支持、筋、神経の4組織の成り立ちを細胞レベルで学習する。加えて、全身に存在する粘膜、運動器などについて「四大組織の組み合わせ」の視点で学習する。M2 ZoneAの各論では消化器系など各器官レベルの組織構築について「四大組織の組み合わせ」の視点で学習する。従って、基礎医学入門で得られる組織学総論の知識はM2 ZoneAの学習を円滑に進めるために極めて重要であり、十分に学習する必要がある。</p> <p>組織学では「個体-器官-臓器-組織-細胞-細胞内小器官-分子」の階層のうち臓器～細胞内小器官レベルの構造について学習する。その点で、組織学は個体～臓器レベルの構造を学習する肉眼解剖学(Unit1)、細胞～分子レベルの学習が主体の生化学・分子生物学(ZoneB)、臓器別の機能について学習するZoneCのいずれとも有機的な連携を可能とする重要な位置を占めていることをよく理解しておくように</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①人体を構成する基本単位である細胞について、その構造と機能について理解することができる。</li> <li>②多細胞生物の細胞間相互作用について分子レベルで理解することができる。</li> <li>③人体の組織が四大組織(上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織)の組み合わせからなることを説明できる。</li> <li>④講義前後の自己学習を通して、学習内容から重要な点を見出し、アウトプットするための簡潔に文章や図表をまとめる習慣をつける。</li> <li>⑤諸講義で登場した臓器の構造と役割についての概略を説明できる。</li> </ol>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①生物を構成する分子の基本的構造および機能を説明できる。</li> <li>②細胞内小器官、細胞膜の基本的構造と機能を説明できる。</li> <li>③細胞間相互作用の分子メカニズムについて説明できる。</li> <li>④四大組織(上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織)の特徴、体内分布について説明できる。</li> <li>⑤運動器(関節)、外皮(皮膚)、粘膜(腸管)の基本構築について四大組織に基づき説明できる。</li> <li>⑥本カリキュラムでの習得内容を応用し、組織細胞の機能の破綻と各種病態の関係について説明することができる。</li> </ol>			

## 自己学習(準備学習)

《記述プール問題の利用によるactive learning》

M1組織細胞生物学、M2ZoneA、ZoneBでは講義あたり3問前後記述プール問題が予め配布され(資料集に添付)。各試験で出題される。必ずノートを準備し、1問あたりA4半分ぐらいに要点を簡潔にまとめること。A4の下半分には問題に関連した重要な図表を貼付けるか、自分で写す。いくら美しく詳しい解答集を作成しても、アウトプットできなければ、得点につながらない。詳しいノートは資料集としてすでに配布している。

一般に、ライセンスのための勉強は、効率化が極めて重要である。医学生の場合、学習項目を減らすことでの効率化は難しい(何故か考えてみよう)ため、学習の「過程」を効率化するしかない。解剖学では、重要な事柄は「決まっている」ため、それを問題として予め提示して、重要項目をバランスよく優先的に学習し、「アウトプットできる知識」にすることがプール問題の最大の目的である。プール問題を講義前の予習復習内容と関連させ、講義から重要なポイントを見つけることで効率のよい自己学習が可能となる。アウトプット(=試験で短時間に正解を出す)できるよう、各項目につき簡潔にまとめる必要がある。その際、文章だけでなく、教科書や資料集をもとに自分の手で簡単な図表を描くことで効率的に理解する習慣を身につけてほしい。自分で解答を作るactive learningの過程が知識を定着させる上で極めて重要で、まとめ方は人それぞれであり、同級生や先輩の解答をコピーして覚える(passive)だけでは十分なアウトプットは期待できない。また誤った/見当違いの答えを丸覚えすると零点になる恐れがある(昨年度多数あり)。まとめたノートをそのままCBT対策に活用できるよう、十分に準備してほしい。

《医学書院iSmartの活用》

iSmartを通して指定教科書(「標準組織学総論」)を閲覧できる。加えて、コアカリの関連項目ごとに知識を整理する機能が備わっている。さらに上記プール問題もiSmart上で回答をまとめることができるようになっていいる。大いに活用していただきたい。

《manabaの活用》

e-learning支援のためのmanabaにて、過去の講義の動画を事前に配信して効率的な予習を促す予定である。更に、各講義に関連した国家試験の過去問や、有用な動画のリンクを講義当日までにコースニュースとして配信するので利用して欲しい。プール問題の意図や講義に関する質問はmanabaの掲示板を通して行うこと。講義担当者ないし科目責任者もmanabaを通してできるだけ速やかに回答する。

【自己学習(準備学習)に必要な時間】1時限あたり 予習:45分, 復習:45分

## 学習上の注意点

組織細胞生物学は、基礎医学の最初のステップであり、これ以降の講義を理解するための基礎になる。したがって、ここからよいスタートを切ることが、今後のステップに進むための重要である。そのため、理解しにくい項目がある場合にはそのままにせず、講義担当者に積極的に質問すること、連続性のある講義を休まないようにすることが大切である。講義にあわせて下記教科書を用いた予習・復習を行う習慣を出来るだけ早く身につけることが重要である。また、資料集は教科書ではなく、講義の補助に過ぎないことに留意されたい。講義ではこれら教科書および資料集の中の特重要なポイントが強調される。従って講義に出席して効率良く学習するスタイルを早く身に付けることが肝要である。組織細胞生物学は様々な臓器の細胞を例に挙げて講義が進められる。言い換えると、様々な臓器について学習する初めての機会となる。一連の講義で学習した臓器の構造と役割についての概略を理解しておくことは、今後の講義実習を円滑に進める上で重要となる。

組織細胞生物学は1ヶ月という短期間に多くの講義実習が設定されているため、効率良い学習が重要である。組織学実習は講義で学習した内容について顕微鏡で観察するactive learningであり、実習中に講義の知識と実習内容を連携させるように努めてほしい。組織細胞生物学の総合成績での実習試験のウエイトは大きい。実習は全員出席のこと。実習問題と講義に関する選択問題は過去問があり、過去3年分が配信される。例年試験では重要な箇所が出題されるので、過去問を解くことは重要事柄を効率良く習得する上で極めて重要である。しかし、過去問と同一の問題が出題されることは稀であるため、過去問だけの学習では不十分である。プール問題については上記を参照されたい。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

各講義の質問はmanabaの掲示板に書き込むこと。できるだけ速やかに対応します。試験の講評、注意点はmanabaの試験の欄のコースニュースを通して配信する。試験の解答に対する疑義がある場合は解答配布後1日以内に教務課に届け出ること。

## 成績評価方法・基準

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

成績評価方法:

[原則、以下とおり判定します。]

・定期試験は講義あたり2問の選択問題と、実習標本に関する記述問題、数問のプール問題に基づく記述問題からなる。それぞれの試験を100点満点として採点し、原則、選択問題:実習問題:プール問題=4:3:3の割合で算出した得点を最終成績とする。

・実習は全出席が原則であり、正当な理由がない欠席は総合点からの大幅な減点ないし受験資格喪失の対象となるので注意すること。

・また、講義は2/3以上出席しないと受験資格そのものを失うので注意すること。

成績評価基準:

・原則、定期試験の結果に、「臨床との繋がり」についてのレポート提出の平常点を加味して、60点未満を再試験とする。再試験の範囲、点数算出法は本試験と同様である。

①②は指定教科書につき、必ず必ず購入し、講義実習に持参すること。

②は電子書籍として閲覧可能。

指定教科書

①「Essential 細胞生物学」(原書第5版)(Albertら著 中村桂子・松原謙一監訳 南江堂)

②「標準組織学 総論 第6版」(藤田恒夫、藤田尚男著 医学書院)

参考書

③「Ross組織学」(原書第7版)(Ross&Pawlina著 内山安男・相磯貞和監訳 南江堂)

④「組織細胞生物学 原書第5版」(Abraham L. Kierszenbaum著 内山安男監訳 南江堂)

⑤「カラー図解 人体の細胞生物学」(坂井建雄、石崎泰樹編 日本医事新報社)

科目名	科目コード	単位数	責任者
基礎医学入門 組織学実習	INBM 030	5 (基礎医学入門 全体)	神経生物学・形態学講座 小池 正人

## 学習内容・概要

人体のミクロレベルの解剖学である組織学は織物に例えると総論の「縦糸」と各論の「横糸」からなり、人体のミクロレベルの構造を理解するためにはどちらも必須である。組織細胞生物学では人体を構成する上皮、支持、筋、神経の4組織の成り立ちを細胞レベルで学習するための21コマの講義を実施する。併せて、組織学(顕微解剖学)の総論とその実際を観察するための実習を行う。人体を構成する器官は、その主たる機能を実行する細胞群(実質細胞)とそれを支える環境(支持組織)からなる。同一の機能を持つ細胞の集団を組織という。器官は、様々な組織の集団で構成される。また、器官には組織を支えるための骨格となる構造がある。組織細胞生物学の真の目的は、人体の医学生物学的な構成原理を学ぶことである。この理解のために、実習で光学顕微鏡に習熟することが求められる。M2ZoneAの組織学各論では消化器系、内分泌系など各器官レベルの組織構築について「四大組織の組み合わせ」の視点で学習する。従って、基礎医学入門で得られる組織学総論の知識はM2ZoneAの円滑なスタートを切るために極めて重要であり、十分に学習する必要がある。

組織学では「個体-器官-臓器-組織-細胞-細胞内小器官-分子」の階層のうち臓器～細胞内小器官レベルの構造について学習する。その点で、組織学は個体～臓器レベルの構造を学習する肉眼解剖学(Unit1)、細胞～分子レベルの学習が主体の生化学・分子生物学(ZoneB)、臓器別の機能について学習するZoneCのいずれとも有機的な連携を可能とする重要な位置を占めていることをよく理解してほしい。

組織細胞生物学は1ヶ月という短期間に多くの講義実習が設定されているため、効率良い学習が重要である。組織学実習は講義で学習した内容について顕微鏡で観察するactive learningであり、実習中に講義の知識と実習内容を連携させるように努めてほしい。組織細胞生物学の総合成績での実習試験のウエイトは大きい。

## 学習目標

## [一般目標]

- ①上皮組織、結合組織、血球、骨・軟骨、筋組織、神経組織を組織標本の上で同定できる。
- ②人体各器官の組織標本を顕微鏡で観察してその組織構築を同定できる。
- ③電子顕微鏡写真でいろいろな細胞の形態上の特徴を記載し、機能との関連を考察できる。
- ④運動器(関節)、外皮(皮膚)、粘膜(腸管)の基本構築について四大組織に基づき説明できる。
- ⑤各実習で観察した臓器の構造と役割についての概略を説明できる。

## [到達目標]

- ①顕微鏡の使用方法を修得する。②バーチャルスライドの使用方法を習得する。
- ③細胞の構造を光学顕微鏡、電子顕微鏡レベルの細胞の構造を説明できる。
- ④上皮組織を細胞レベルで説明できる。⑤結合組織の構造と機能を説明できる。
- ⑥各種血球の組織学的分類ができる。⑦軟骨・骨組織の構造と機能を説明できる。
- ⑧筋組織の構造と機能を説明できる。⑨神経系の構造と機能を説明できる。
- ⑩運動器(関節)、外皮(皮膚)、粘膜(腸管)の基本構築について四大組織に基づき説明できる。

## 自己学習(準備学習)

<予習> 神経生物学・形態学講座オリジナルの実習書を配布する。講義内容と照らし合わせながら、予習すること。  
 <復習> 本実習では内分泌系、生殖器、感覚器を除く様々な臓器の切片を観察する。各実習で観察した臓器については、その構造と役割についての概略について学習するように。

【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分

## 学習上の注意点

< 実習及び実習室の利用について >

①忘れ物をしないこと:実習書、教科書、資料集を持参し、適宜これらの資料を参照しながら実習を進めること。②遅刻、欠席(忌引および学校伝染病などやむを得ない場合以外)早退は一切認めない。③事前に予習を行うこと。④飲食禁止。⑤実習室では携帯電話の使用(電話/端末としてもカメラとしても)を禁ずる。⑥先輩の過去のノートを実習室に持ち込むのは厳禁。⑦携帯に撮影した像の利用についても厳禁。

< 標本及び備品の利用について >

①標本は予備がほとんどない貴重なものばかりである。扱いに注意すること。万が一破損した場合はすぐに教員に届け出ること。②光学顕微鏡を乱暴に取り扱わないこと。不具合が有ればすぐに教員に問い合わせること。③共通の実習書を使用した後は必ずもとの場所に返却すること。

< 復習の重要性 >

講義の内容を組織学実習での観察を通して定着させるように努めること。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

各講義の質問はmanabaの掲示板に書き込むこと。できるだけ速やかに対応します。試験の講評、注意点はmanabaの試験の欄のコースニュースを通して配信する。試験の解答に対する疑義がある場合は解答配布後1日以内に教務課に届け出ること。

## 成績評価方法・基準

成績評価方法:

[原則、以下とおりに判定します。]

・定期試験は講義あたり2問の選択問題と、実習標本に関する記述問題、数問のプール問題に基づく記述問題からなる。それぞれの試験を100点満点として採点し、原則、選択問題:実習問題:プール問題=4:3:3の割合で算出した得点を最終成績とする。

・実習は全出席が原則であり、正当な理由がない欠席は総合点からの大幅な減点ないし受験資格喪失の対象となるので注意すること。

・また、講義は2/3以上出席しないと受験資格そのものを失うので注意すること。

成績評価基準:

・原則、定期試験の結果に、「臨床との繋がり」についてのレポート提出の平常点を加味して、60点未満を再試験とする。再試験の範囲、点数算出法は本試験と同様である。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

①②は指定教科書につき、必ず必ず購入し、講義実習に持参すること。

②は電子書籍として閲覧可能。

指定教科書

①「Essential 細胞生物学」(原書第5版)(Albertら著 中村桂子・松原謙一監訳 南江堂)

②「標準組織学 総論 第6版」(藤田恒夫、藤田尚男著 医学書院)

参考書

③「Ross組織学」(原書第7版)(Ross&Pawlina著 内山安男・相磯貞和監訳 南江堂)

④「組織細胞生物学 原書第5版」(Abraham L. Kierszenbaum著 内山安男監訳 南江堂)

⑤「カラー図解 人体の細胞生物学」(坂井建雄、石崎泰樹編 日本医事新報社)

	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式			
1/27 月 1限		オリエンテーション									
1/27 月 2限											
1/27 月 3限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-1:細胞の構造-1①	細胞の成り立ち	細胞膜、細胞内膜、細胞内小器官、細胞質	①「標準組織学 総論 第6版」(藤田恒夫、藤田尚男 原著 医学書院) 2章 細胞の構造と機能(17-87頁) ②「Essential 細胞生物学」原書第5版 第1章 細胞:生命の基本単位(1-27頁)、第5章 DNAと染色体(173-197頁)、第11章 膜の構造(365-387頁)、第12章 膜を横切る輸送(383-391頁)、第15章 細胞内区画と細胞内輸送(487-522頁)	①細胞のさまざまな研究方法について説明できる。 ②細胞内小器官の構造と機能、およびその代表的な構成分子について概説できる。 ③小胞体、ゴルジ体、リソソームについて、その生理的な役割について説明できる。 ④ミトコンドリア、ペルオキシソームの構造と微細構造とその機能について説明できる。 ⑤核の構造、染色体とゲノムDNAの関係、DNAの基本構造を説明できる。	組織細胞-4,5 細胞内区画と細胞内輸送-1、2の内容と関連付けて学習すること。	講義			
1/27 月 4限		組織細胞-1:細胞の構造-1②							講義		
1/27 月 5限		組織細胞-2:細胞の構造-2①	核以外の各種細胞内小器官	小胞体、ゴルジ装置、リソソーム、ミトコンドリア、ペルオキシソーム				講義			
1/27 月 6限		組織細胞-2:細胞の構造-2②						講義			
1/27 月 7限		組織細胞-2:細胞の構造-3①	核と染色体	核、核小体、核膜、染色体				講義			
1/27 月 8限		組織細胞-2:細胞の構造-3②						講義			
1/28 火 1限	神経生物学・ 形態学講座 曾高 友深	組織細胞-4:細胞内区画と細胞内輸送-1 ①	細胞内区画とタンパク質の選別	核膜、ミトコンドリア、ペルオキシソーム、小胞体、リボソーム、シグナル配列、シャペロン	①「標準組織学 総論 第6版」(藤田恒夫、藤田尚男 原著 医学書院) 2章 細胞の構造と機能(17-87頁) ②「Essential 細胞生物学」原書第5版 第1章 細胞:生命の基本単位(1-27頁)、第15章 細胞内区画と細胞内輸送(495-530頁)	①細胞内での物質の輸送機構の原理について説明できる。 ②小胞体、ゴルジ体、リソソームについて、その生理的な役割について説明できる。 ③小胞体による分泌経路、エンドサイトーシスについて説明できる。 ④オートファジーの過程とその役割について説明できる。	組織細胞-1-3 細胞-1、2、3の内容と関連付けて学習すること。	講義			
1/28 火 2限		組織細胞-4:細胞内区画と細胞内輸送-1 ②							講義		
1/28 火 3限		組織細胞-5:細胞内区画と細胞内輸送-2①	細胞内における小胞の輸送	小胞体、ゴルジ体、分泌小胞、リソソーム、エンドサイトーシス、エキソサイトーシス、ファゴサイトーシス、SNARE				講義			
1/28 火 4限		組織細胞-5:細胞内区画と細胞内輸送-2②						講義			
1/29 水 1限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-6:上皮組織①	上皮組織の基本構築と分類、腺組織	単層上皮、重層上皮、扁平上皮、立方上皮、円柱上皮、多列上皮、移行上皮、微絨毛、線毛、不動毛、接着複合体、基底膜、外分泌、内分泌、全分泌、部分分泌、開口分泌、透出分泌、アポクリン分泌	「標準組織学 総論 第6版」(藤田恒夫、藤田尚男 原著 医学書院) 2章 細胞の構造と機能(45-58頁)、3章 上皮組織(88-118頁)	①代表的な上皮組織について形態学的特徴と具体例を説明できる。 ②上皮細胞の極性と接着複合体・基底膜の関係について概説できる。 ③上皮組織と腺の関係について概説できる。		講義			
1/29 水 2限		組織細胞-6:上皮組織②							講義		
1/29 水 3限		組織細胞-7:細胞接着・細胞の極性①	細胞の相互認識および結合の機構	線毛、微絨毛、不動毛、接着複合体、密着結合、接着帯、接着斑、ギャップ結合、基底膜、ヘミデスモソーム、局所接着、カドヘリン、インテグリン				①「標準組織学 総論 第6版」(藤田恒夫、藤田尚男 原著 医学書院) 2章 細胞の構造と機能(45-58頁)、3章 上皮組織(92-99頁)、4章 結合組織(129-130頁)	①極性のある細胞の構造的特徴について説明できる。 ②細胞間接着因子の種類と特徴を説明できる。 ③接着複合体の種類と構造を説明できる。		講義
1/29 水 4限		組織細胞-7:細胞接着・細胞の極性②									

	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式	
1/29 水 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:細胞	光学顕微鏡を用いて細胞の構造を観察することで光学顕微鏡の使い方を学ぶ	細胞膜、細胞質、核、細胞内小器官(ミトコンドリアとゴルジ装置)、染色体、染色法	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	①「標準組織学 総論 第6版」(藤田恒夫、藤田尚男 原著 医学書院) 2章 細胞の構造と機能(45-58頁), 3章 上皮組織(92-99頁), 4章 結合組織(129-130頁) ②「Essential 細胞生物学(原書第5版)」(Albertら著南江堂) 第20章 (701-709頁)	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。 ②目的を理解して観察・スケッチをする。	実習	
1/29 水 6限									
1/29 水 7限									
1/29 水 8限									
1/30 木 1限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-8:細胞外マトリックス①	細胞の周りの世界	細胞外マトリックス、コラーゲン線維、細網線維、弾性線維、線維芽細胞、基底膜、プロテオグリカン、インテグリン、ラミニン、線維芽細胞、マクロファージ、肥満細胞、脂肪細胞、形質細胞、疎性結合組織、緻密結合組織、脂肪組織、胎児性結合組織	①「標準組織学 総論 第6版」(藤田恒夫、藤田尚男 原著 医学書院) 4章 結合組織(119-157頁) ②「Essential 細胞生物学」原書第5版 第20章 細胞のつくる社会 (691-701頁)	①結合組織の種類と構成する細胞を列挙し、それらの形態学的特徴と機能を説明できる。 ②それぞれの結合組織が存在する臓器を列挙できる。 ③細胞間質(線維成分と基質)の種類を列挙し、その特徴を説明できる。 ④基底膜・細胞と結合組織の結合様式について説明できる。		講義	
1/30 木 2限		組織細胞-8:細胞外マトリックス②						講義	
1/30 木 3限		組織細胞-9:結合組織①						結合組織とその構成要素	講義
1/30 木 4限		組織細胞-9:結合組織②							講義
1/30 木 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:上皮組織	上皮細胞の形態と配列に基づき上皮を分類する。	単層扁平・立方・円柱上皮、重層扁平上皮、多列上皮、腺、微絨毛、基底膜	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	① 上皮組織を構成する細胞の形態とその配列の種類を知り、多様な機能との関係を説明できる。 ② 上皮細胞の頂上面の形態学的特徴と基底膜について説明できる。 ③ 終末部と導管からなる外分泌腺と上皮細胞との関係を説明できる。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。 ②上皮組織とその下に存在する結合組織や血管、神経との関係を知る。	実習	
1/30 木 6限									
1/30 木 7限									
1/30 木 8限									
1/31 金 1限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:予備日	以下の者は出席すること。 ①正当な理由があり欠席た者で追実習が完了していないもの。 ②これまでの実習状況を鑑み追実習が必要であると判断された者 ③自主的に復習を望むもの。		関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	① これまでの諸実習で十分に学習できなかった項目について復習を行う。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。	実習	
1/31 金 2限									
1/31 金 3限									
1/31 金 4限									

	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式	
1/31 金 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:結合組織	結合組織の種類とその 構成要素	疎性・密性結合組織、コラーゲン線維、弾性線維、線維芽細胞、脂肪細胞、肥満細胞、マクロファージ	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	①結合組織を構成する細胞成分と細胞外マトリックスについて説明できる。 ②結合組織で見られる3種類の線維成分の特徴を説明できる ③疎性結合組織、緻密結合組織の違い、体内での分布について説明できる。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。 ②全身に存在する結合組織の役割を包括的に理解する。	実習	
1/31 金 6限									
1/31 金 7限									
1/31 金 8限									
2/3 月 1限	神経生物学・ 形態学講座 横田 睦美	組織細胞-10:血球の種類と役割①	血液の構成成分と白血球の分類	血清、血漿、赤血球、ヘモグロビン、白血球、顆粒白血球、好中球、アズール顆粒、好塩基球、好酸球、リンパ球、B細胞(Bリンパ球)、T細胞(Tリンパ球)、単球、血小板	①「標準組織学 総論 第6版」(藤田恒夫、藤田尚男 原著 医学書院)7章 血液、リンパおよび組織液(191-217頁) ②「標準組織学 各論 第6版」(藤田恒夫、藤田尚男 原著 医学書院)3章 脾臓と骨髄(69-75頁)	①血液でみられる各々の成分を列挙し、成人における正常値について説明できる。 ②血液の各種細胞性分の種類、形態学的特徴、機能を説明できる。		講義	
2/3 月 2限								組織細胞-10:血球の種類と役割②	
2/3 月 3限		組織細胞-11:骨髄と造血①	血球は骨髄で造られる	骨髄、造血幹細胞、骨髄系幹細胞、リンパ系幹細胞、造血促進因子			①造血器の変遷について説明できる。 ②骨髄の構造と機能について説明できる。 ③各種血球の分化について説明できる。	「細胞の分化」について血球の分化を例に学習する。	講義
2/3 月 4限									組織細胞-11:骨髄と造血②
2/4 火 1限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-12:軟骨および骨組織①	軟骨・骨の構築	軟骨細胞、骨芽細胞と骨細胞、コラーゲン、ヒドロキシアパタイト、破骨細胞、骨層板、緻密質、ハヴァース系	「Ross組織学」7 軟骨組織(194-213頁)、8骨組織(214-253頁)	①軟骨組織の種類を列挙し、それらの組織学的特徴と機能を説明できる。 ②骨組織の組織学的構造および骨芽細胞と破骨細胞の機能を説明できる。 ③骨形成過程を組織学的観点から説明できる。 ④関節の構造を組織学的に説明できる。		講義	
2/4 火 2限								組織細胞-12:軟骨および骨組織②	
2/4 火 3限		組織細胞-13:骨の発生とリモデリング①	骨化のメカニズム	骨芽細胞、破骨細胞、膜性骨化、軟骨内骨化、骨端軟骨、リモデリング、関節			①軟骨組織の種類、それらの組織学的特徴と機能を説明できる。 ②骨組織の組織学的構造、骨芽細胞と破骨細胞の機能を説明できる。 ③骨形成過程を組織学的観点から説明できる。 ④関節の構造を組織学的に説明できる。		講義
2/4 火 4限									組織細胞-13:骨の発生とリモデリング②
2/4 火 5限	神経生物学・ 形態学教員	組織学実習:血液と細網組織	血球を分類する	赤血球、白血球、血小板、リンパ球、骨髄、リンパ節、細網組織、染色体	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	①血液の各種細胞性分を顕微鏡下に同定できる。 ②血液の各種細胞性分の種類、形態学的特徴、機能について説明できる。 ③血球を用いた染色体の観察法について理解する。 ④リンパ系組織に見られる細網組織について理解する。 ⑤骨髄の組織学的構造について説明できる。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。	実習	
2/4 火 6限									
2/4 火 7限									
2/4 火 8限									

	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/5 水 1限	神経生物学・ 形態学講座 曾高 友深	組織細胞-14:細胞骨 格・細胞運動①	細胞形状の維持と変 化、細胞運動に関わる 分子	アクチンフィラメント、マイクロ チューブル、中間径フィラメン ト、アクチン、チューブリン、 モータータンパク、ATPase、滑 り説、アメーバ運動、細胞分裂	①「Essential 細胞生物学」原書第5版 第 1章(22-25頁)、第17章(573-608頁)、 第18章(624-639頁) ②「標準組織学 総論 第6版」(藤田恒 夫、藤田尚男 原著 医学書院)2章 細 胞の構造と機能(45-57、68-73頁)	①中間径フィラメント、微小管、アクチンフィ ラメントの構造や機能が説明できる ②モータータンパク質の役割を理解する。 ③細胞運動における細胞骨格の役割が説 明できる。		講義
2/5 水 2限		組織細胞-14:細胞骨 格・細胞運動②						講義
2/5 水 3限	神経生物学・ 形態学講座 曾高 友深	組織細胞-15:筋組織①	筋の種類と構造	骨格筋、筋原線維と横紋、アク チンフィラメント・ミオシンフィラメ ント、筋鞘と筋小胞体、神経筋 接合部、心筋、介在板、平滑筋	「標準組織学 総論 第6版」(藤 田恒夫、藤田尚男 原著 医学 書院)8章 筋組織(218-253頁)	①平滑筋・心筋・骨格筋の組織 学的特徴と機能、分布を説明し、 その差異を指摘できる。 ②運動神経終末(運動終板)の構 造と機能を説明できる。		講義
2/5 水 4限		組織細胞-15:筋組織②						講義
2/5 水 5限	神経生物学・ 形態学教員	組織学実習:軟骨および 骨組織	軟骨と骨の構造を観察 する。	ガラス軟骨・弾性軟骨・線維軟 骨、ハヴァース系、骨層板、骨 芽細胞と骨細胞、破骨細胞、軟 骨内骨化	関連講義の教科書と資料集を 復習したうえで、実習書を予習 しておく。	①軟骨・骨組織を構成する細胞 と細胞外基質について説明でき る。 ②軟骨・骨組織の成長と代謝に ついて説明できる。 ③骨単位(オステオン)について 組織学的に説明できる。 ④膜内骨化と軟骨内骨化のメカ ニズムについて説明できる。	①実習に必要な、教 科書、実習書、資料 集などを忘れないこ と。 ②骨組織が生きてい て変化し続ける組織 であることを理解す る。	実習
2/5 水 6限								
2/5 水 7限								
2/5 水 8限								
2/6 木 1限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:予備日	以下の者は出席するこ と。 ①正当な理由があり欠 席た者で追実習が完了 していないもの。 ②これまでの実習状況 を鑑み追実習が必要で あると判断された者 ③自主的に復習を望む もの。	関連講義の教科書と資料集を 復習したうえで、実習書を予習 しておく。	① これまでの諸実習で十分に学 習できなかった項目について復 習を行う。	①実習に必要な、教 科書、実習書、資料 集などを忘れないこ と。	実習	
2/6 木 2限								
2/6 木 3限								
2/6 木 4限								
2/6 木 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:筋組織	骨格筋・心筋・平滑筋を 区別する。	骨格筋細胞、心筋細胞、平滑 筋細胞、筋原線維と横紋、運動 終板、筋紡錘	関連講義の教科書と資料集を 復習したうえで、実習書を予習 しておく。	①3種類の筋組織の光学顕微鏡 レベルでの形態的特徴を説明で きる。 ②筋細胞の配列や結合組織・血 管・神経との関係を説明できる。	①実習に必要な、教 科書、実習書、資料 集などを忘れないこ と。 ②3種類の筋組織の 形態と機能を比較し て理解する。	実習
2/6 木 6限								
2/6 木 7限								
2/6 木 8限								

	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/10 月 1限	神経生物学・ 形態学講座 日置 寛之	組織細胞-16:神経組織 -1①	中枢神経系の構成要素	ニューロン、神経細胞体、樹状突起、軸索、神経線維、髄鞘、シナプス、神経膠細胞(グリア細胞)	①「標準組織学 総論 第6版」(藤田恒夫、藤田尚男 原著 医学書院)9章 神経組織 (254-305頁) ②「標準組織学 各論 第6版」(藤田恒夫、藤田尚男 原著 医学書院)21章 末梢神経、髄膜、脳室(510-512頁)	①中枢神経系と末梢神経系の区分を説明できる。 ②中枢神経系のニューロンとグリアの構造と機能について説明できる。 ③シナプスの基本構造を説明できる。		講義
2/10 月 2限		組織細胞-16:神経組織 -1②						講義
2/10 月 3限		組織細胞-17:神経組織 -2①	末梢神経系の構成要素、神経組織の変性・再生	末梢神経、シュワン鞘、神経節、神経筋接合部、ワラー変性、神経分化		①末梢神経線維、神経節の組織学的構造について説明できる。 ②神経組織の変性・再生について例を挙げて説明できる。		講義
2/10 月 4限		組織細胞-17:神経組織 -2②						講義
2/10 月 5限	生理学第一講座 小西 清貴	組織細胞-18:興奮の発生、伝導、伝達①	神経細胞の電気的な活動と、すばやく正確に情報を伝え処理する仕組み	静止電位、活動電位、イオンチャンネル、無髄神経、有髄神経、シナプス、伝達物質、受容体	「標準生理学 第9版」(本間研一 監修 医学書院)2章 膜興奮性とイオンチャンネル(62-117頁), 4章 興奮の伝達(139-181頁)	静止膜電位、活動電位がどのような機序で発生するか、発生した活動電位がどのように軸索を伝導し、シナプスで伝達されるかを説明できる。		講義
2/10 月 6限		組織細胞-18:興奮の発生、伝導、伝達②						講義
2/12 水 1限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:予備日	以下の者は出席すること。 ①正当な理由があり欠席た者で追実習が完了していないもの。 ②これまでの実習状況を鑑み追実習が必要であると判断された者 ③自主的に復習を望むもの。		関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	① これまでの諸実習で十分に学習できなかった項目について復習を行う。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。	実習
2/12 水 2限								
2/12 水 3限								
2/12 水 4限								
2/12 水 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:神経組織	中枢神経系・末梢神経系を構成する細胞と線維を見る。	ニューロンの樹状突起・細胞体・軸索、髄鞘、有髄神経線維・無髄神経線維、末梢神経、神経節	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	① 神経細胞(ニューロン)の形態と極性について説明できる。 ② 中枢神経系と末梢神経系のニューロンとグリア細胞について説明できる。 ③末梢神経線維、神経節について組織学的に説明できる。 ④無髄神経線維と有髄神経線維の組織学的構造の違いについて説明できる。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。 ②神経細胞の各部位の形態と機能を理解する。 ③実習終了後各自の標本を整理する。	実習
2/12 水 6限								
2/12 水 7限								
2/12 水 8限								
2/13 木 1限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-19:粘膜・腺組織①	中空性器官と実質性器官の基本構造の観点から粘膜と腺組織を理解する	器官系、実質性器官、中空性器官、消化管の一般構造、粘膜、上皮、漿膜、腺、粘液腺、漿液腺	①「標準組織学 総論 第6版」(藤田恒夫、藤田尚男 原著 医学書院)3章 上皮組織(88-118頁) ②「標準組織学 各論 第6版」(藤田恒夫、藤田尚男 原著 医学書院)5章 食道と胃腸(108-109頁)	①上皮が重層扁平上皮から変化する粘膜の部位を列挙できる。 ②消化管を例として中空性器官の基本構造について説明できる。 ③腺組織の種類と基本構造について説明できる。	この講義は消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系を理解するうえで重要。 組織細胞-6の内容を復習して講義に望むこと。	講義
2/13 木 2限		組織細胞-19:粘膜・腺組織②						講義

	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/13 木 3限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-20:外皮・運 動器①	外皮・運動器(筋の付 着、関節)の基本構造	皮膚、真皮、皮下組織、汗腺、 体壁、関節、関節軟骨、間接 包、滑膜、腱、筋腱接合部、腱 膜、腱鞘、腱骨接合部、筋膜、 筋紡錘、骨膜、末梢神経、	「標準組織学 総論 第6版」(藤 田恒夫、藤田尚男 原著 医学書 院) 3章 上皮組織、4章 結合 組織、5章 軟骨組織、6章 骨組 織、8章 筋組織、9章 神経組織	①体壁の構造を組織学的に説明 できる。 ②広い興味での筋膜について組 織学的に説明できる。 ③筋の骨への付着様式を組織学 的に説明できる。	この講義は肉眼解剖 学の前半部分を理 解するうえで重要。 各関連講義の内容を 復習して講義に望む こと。	講義
2/13 木 4限		組織細胞-20:外皮・運 動器②						講義
2/13 木 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:4大組織ま とめ	四大組織から見た運動 器、外皮、腸管	関節、関節軟骨、間接包、滑 膜、腱、筋腱接合部、腱膜、腱 鞘、筋膜、筋紡錘、骨膜、末梢 神経、皮膚、真皮、皮下組織、 汗腺、粘膜、粘膜固有組織、粘 膜筋板、粘膜下組織、腺、平滑 筋、粘膜下神経叢、筋間神経 叢、漿膜	関連講義の教科書と資料集を 復習したうえで、実習書を予習 しておく。	① 膝関節を構成する成分につ いて四大組織の組み合わせに基づ き説明できる。 ② 手掌の横断像で観察できる構 造物(外皮を含む)について四大 組織の組み合わせに基づき説明 できる。 ③ 小腸を例として中空性臓器の 基本構造について四大組織の組 み合わせに基づき説明できる。	①実習に必要な、教 科書、実習書、資料 集などを忘れないこ と。	実習
2/13 木 6限								実習
2/13 木 7限								実習
2/13 木 8限								実習
2/14 金 3限	旭川医科大学 甲賀 大輔	組織細胞-21:①《特別 講義》立体組織学	走査電子顕微鏡でみた からだの世界	パラフィン切片、染色、電子顕 微鏡、立体組織	標準組織学 総論 第6版」(藤田 恒夫、藤田尚男 原著 医学書 院) 序章 序章 細胞と組織の概 念 (1-8頁)	①パラフィン試料作製法・染色法 を説明できる。 ②透過電子顕微鏡と走査電子顕 微鏡の違いを説明できる。 ③電子顕微鏡の試料作製法を説 明できる。	本講義は特別講義 につき出席を重視す る。	講義
2/14 金 4限		組織細胞-21:②《特別 講義》立体組織学						講義
2/14 金 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:電子顕微 鏡の世界	超微形態レベルの細 胞・組織の構造の観察	細胞膜、細胞質、核、細胞内小 器官、細胞骨格、細胞間接着、 筋線維、シナプス、髄鞘、	関連講義の教科書と資料集を 復習したうえで、実習書を予習 しておく。	① 電子顕微鏡写真を見て、細胞 内小器官、細胞表面の構造、隣 接する細胞間の関係について説 明できる。 ② 光学顕微鏡と電子顕微鏡のそ れぞれの特性を説明できる。	①実習に必要な、教 科書、実習書、資料 集などを忘れないこ と。	実習
2/14 金 6限								実習
2/14 金 7限								実習
2/14 金 8限								実習
2/20 木		基礎医学入門定期試験 組織細胞生物学定期試 験						
3/1 土		組織細胞生物学定期試 験の再試験						

科目名	科目コード	単位数	責任者
医療プロフェッショナルリズム入門 多職種連携: 早期体験実習 (病院内多職種演習・Meet the patient実習・看護師同行実習・IPE合同演習)		1 (医療プロフェッショナルリズム入門 全体)	医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・生理学第二講座 渡邊 マキノ
学習内容・概要			
<p>多職種連携: 早期体験実習は、3つの体験実習と1回の演習から構成されている。</p> <p><b>体験実習①病院内多職種演習:</b> 多職種連携・チーム医療の実際を知るために、病院内で働く様々な職種の人々、病院内の多様な機能を学ぶ。白衣を着用して医療の現場で働く人と接する体験を通じて、医学生としての自覚を高め、医療チームの一員としての基本的な態度とマナーを学ぶ。</p> <p><b>体験実習②Meet the patient実習:</b> 附属病院の病棟で、入院患者さんへのインタビューを体験することにより、医療者に必要とされる患者さんとのコミュニケーション、他者の心情を推測する力、思いやる態度を学ぶ。</p> <p><b>体験実習③看護実習:</b> 将来医師となった時に互いに協力していく看護師の仕事を理解するために、病棟内で看護師と行動を共にし、指導のもとに仕事の一部を手伝う。患者－医師関係の基本であるコミュニケーションの基礎を学ぶ。</p> <p><b>IPE (Interprofessional Education)合同演習:</b> 多職種の存在を理解し、職種の役割分担と連携・責任体制を体得するために、医療看護学部・薬学部の学生と共に実際にチームビルディングを試み、多職種連携におけるコミュニケーションを理解する。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>医療現場における様々な職種とその役割を学ぶ。 医療実践の場に身を置き、医療従事者の仕事を手伝わさせていただき、患者さんと人間的にふれあうことにより、医師・医療者を目指す人間としてのアクティブな内面的変容を促す。 医療現場に医学生として身を置き行動するときの、適切な身だしなみ、言葉遣い、態度、マナーを体験から学ぶ。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の健康管理ができる。</li> <li>2. 医療現場において医学生としての自覚を持ち、適切な接遇、態度、マナーを取ることができる。</li> <li>3. 医療チーム内における職種の異なるメンバーの仕事の内容を知り、それぞれの視点に立って医療現場を見ることができる。</li> <li>4. 実践的なコミュニケーション技術の基本を身に付けることができる。</li> <li>5. 自己理解の上に立ち、自らの課題を設定することができる。</li> </ol>			

自己学習(準備学習)	
<p>☆健康管理の仕方を学び、健康で元気よく、患者さんや医療チームに迷惑をかけることなく、実習に参加できるようにする。(医学生としての心構え)</p> <p>☆講義・オリエンテーションには必ず参加し、事前に配布された資料を良く読み、ポイントをしっかり把握しておく。</p> <p>☆温かい人間性は一朝一夕では身につかない。爽やかな挨拶、明るい笑顔、真摯に謙虚に他者から学ぶ姿勢と態度、そして、何よりも温かい心を日々育てていくよう心掛けること。</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>	
<p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>	
学習上の注意点	
<p>☆医療現場は、これから医師・医療者になろうとする医学生にとって学ぶことの宝庫です。あなた自身の学ぼうとする姿勢しだいで、多くのことを学ぶことができます。1人1人、自分自身の課題を設定して実習に臨んでください。ただし、思い込みで行動することは厳禁です。</p> <p>☆あなたには、まだ医師免許はありません。医療に関する専門的な知識もありません。あくまでも、専門職の方々の指導と指示のもとに行動してください。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 「多職種連携:早期体験実習」(オリエンテーション、反省授業を含む)への出席・レポート・評価、および、「医療プロフェッショナリズム入門」の出席、レポート、前期・後期筆記試験成績を加味して総合評価を行う。「医療プロフェッショナリズム入門」試験には「多職種連携:早期体験実習」に関する試験問題を含む。</p> <p>成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>「医療プロフェッショナリズム入門」全体としての教科書は指定しない。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/10 月 5限	医学教育研究室・呼吸器内科 鈴木 勉 医学研究室 澤井 直 医学教育研究室・生理学第二講座 渡邊 マキノ 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	病院の中で仕事をするということ - 医師の責務 -	病院見学オリエンテーション	適切な身だしなみ、態度、マナー、守秘義務、順天堂医院の医療従事者	【復習・準備】病院見学の服装を準備し、身なり、態度を整える。	医学生として病棟に立ち入る時の基本的なマナーを知り、病院見学実習で実践することができる。	無断欠席の場合は6月18日の病院見学実習には参加できない。	講義
6/18 火	医学教育研究室・呼吸器内科 鈴木 勉 医学研究室 澤井 直 医学教育研究室・生理学第二講座 渡邊 マキノ 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	病院内多職種演習			【予習】順天堂医院のHPで病院の概要を調べる。 【自己学習課題の設定】病院見学で学んだことを振り返り、医学生としての課題を自分で設定する。	チーム医療の重要性を理解し、医療従事者との連携を図る大切さを知り、説明することができる。	全員参加が原則である。無断欠席は認められない。	演習
6/24 月 5限	医学研究室 澤井 直 医学教育研究室・生理学第二講座 渡邊 マキノ 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	病院内多職種演習の反省 I	相互に体験を共有する	ピア・エデュケーション、病院、医療従事者、チーム医療	【予習】発表を準備する。 【復習】他チームの発表のポイントを纏める。	自分たちの体験したことを、他者に伝達できる。	実習の一環である。学生どうしの相互学習	実習
7/1 月 5限	医学研究室 澤井 直 医学教育研究室・生理学第二講座 渡邊 マキノ 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	病院内多職種演習の反省 II	相互に体験を共有する	ピア・エデュケーション、病院、医療従事者、チーム医療	【予習】発表を準備する。 【復習】他チームの発表のポイントを纏める。	自分たちの体験したことを、他者に伝達できる。	実習の一環である。学生どうしの相互学習	実習

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
7/22 月 5限	医療看護学部 野崎 真奈美 医学研究室 澤井 直 医学教育研究室・生理学第二講座 渡邊 マキノ 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	患者中心の医療の提供のために: 多職種連携とは?	医療現場における医療プロフェッショナルの役割	多職種連携、地域包括ケアシステム、医師、看護師、医療にかかわる職種	【予習】6月18日に実施された病院見学実習で説明があった部署の役割、関係する職種について復習しておく。 【復習】8月31日に実施される多職種連携合同ワークに向けて準備する。	患者中心の医療を提供するために、多職種が役割を果たし、連携していることを理解できる。	無断欠席の場合は8/31の多職種連携合同ワークに参加できない。	講義
8/31 土	医学研究室 澤井 直 医学教育研究室・生理学第二講座 渡邊 マキノ 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和 医学部一般教育研究室 教員 医療看護学部教員 薬学部教員 他	多職種連携合同ワーク 初期プログラム(Step 1)			【準備】病院見学実習および7月22日の講義で学んだことを振り返り、まとめておく。	・医療看護学部・薬学部の学生とともに多職種連携について議論・討議することができる。 ・参加者の意見を尊重し、グループ全体の意見をまとめることができる。	全員参加が原則である。無断欠席は認められない。	全員必修 演習形式
11/11 月 4限	医学研究室 澤井 直 医学教育研究室・生理学第二講座 渡邊 マキノ 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和 その他本郷キャンパス 教員	Meet the patient実習オリエンテーション	実習直前の諸確認	患者とのコミュニケーション、病院、医療従事者、チーム医療	【予習】病院内多職種演習で学んだ留意点を復習しておく。 【準備】実習に必要なものを準備する。	実習の目的を理解した上で、実習での自分が課題を考えることができる。	無断欠席の場合は11月18日からの施設実習には参加できない。	実習
11/18 ～ 11/22	医学研究室 澤井 直 医学教育研究室・生理学第二講座 渡邊 マキノ 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和 その他本郷キャンパス 教員	Meet the patient実習		患者とのコミュニケーション、病院、医療従事者、チーム医療	【自己学習課題の設定】実習の目的を理解するとともに、自分自身の目標を設定する。 【復習】自分の仲間たちが体験したことから学ぶ。実習レポートをまとめる。	高齢者福祉・医療施設で、高齢者とともに生活し、介護を体験することにより、医師として重要な、他者の心情を推測する力、思いやる態度、チーム内の相互協力を学ぶことができる。	全員参加が原則である。無断欠席は認められない。	体験実習

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/25 月 4限	医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・生理学第二講座 渡邊 マキノ 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和 その他本郷キャンパス 教員	Meet the patient実習反省 授業	相互に体験を共有する	ピア・エデュケーション、患者とのコミュニケーション、病院、医療従事者、チーム医療	【予習】発表を準備する。 【復習】他チームの発表のポイントを纏める。	自分たちの体験したことを、他者に伝達できる。	実習の一環である。学生どうしの相互学習	体験実習
2025年 2/3 月 5-6限	医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・生理学第二講座 渡邊 マキノ 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	看護師同行実習オリエンテーション I	看護師同行実習の目的と内容・準備	患者中心の視点、コミュニケーション、マナー、態度、チーム医療	【準備】これまでの講義・実習で学んだマナー、態度、服装、チーム医療について思い出す。	看護師同行実習に参加する準備ができる	全員出席が原則であり、無断欠席の場合、2/18の基礎看護学実習および2/25からの看護師同行実習への参加を認めない。	実習
2/10 月 7-8限	総合診療科学講座 鈴木 麻衣	医学生に必要な接遇・マナー	医療現場における接遇・マナーの必要性	接遇・マナー、医療倫理、医師国家試験、患者サービス	【予習】社会通念としての接遇・マナーを新聞や書物等で予習しておくこと。授業に臨み、さらに医療者として必要な接遇・マナーを【復習】すること	①接遇。マナーに関する医師国家試験の傾向を知る ②医師として必要な接遇・マナーの概要を知る ③患者サービスとは何かを知る	無断欠席の場合、2/25からの看護師同行実習への参加を認めない。医療に特化した接遇・マナーは医師国験に類出されており、医療行為以外に医師足る人としての行動が求められる。	全員必修 講義形式
2/18 火	医療看護学部教員 医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・生理学第二講座 渡邊 マキノ 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	基礎看護学実習		衛生的な手洗い、感染防護、患者移送、コミュニケーション、患者中心の視点、チーム医療	【予習】実習要項を良く読み込む。	看護の基礎的な技術を身に付けることができる。 どのような配慮のもとに看護技術が実践されているか知り、看護実習で役立てることができる。	2/3のオリエンテーションを無断欠席した場合、参加を認めない。	体験実習
2/21 金	【復習】看護師同行実習において実践できるように、学んだことのポイントをまとめる。							

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/20 木 5-8限	医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・生理学第二講座 渡邊 マキノ 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	看護師同行実習オリエンテーションⅡ	看護師同行実習の目的と内容・準備	患者中心の視点、コミュニケーション、マナー、態度、チーム医療	【準備】これまでの講義・実習で学んだマナー、態度、服装、チーム医療について思い出す。	看護師同行実習に参加する準備ができる	全員出席が原則であり、無断欠席の場合、2/25からの看護師同行実習への参加を認めない。	実習
2/25 火 ～ 2/28 金	医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・生理学第二講座 渡邊 マキノ 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	看護師同行実習		課題発見、患者中心の視点、コミュニケーション、多職種連携、チーム医療、看護師、心理、行動	【自己学習課題の設定】自分自身の目標を設定する。 【復習】体験したことをレポートにまとめる。	①多職種連携・チーム医療の実際を見学・体験して理解することができる。 ②患者理解とは何かを見学・体験して知ることができる。	順天堂大学医学部附属5病院での病棟実習 2/3、10、18、20、21の講義・実習を無断欠席した者は参加できない。	体験実習

2024年度 医の原則・医学と医療の倫理等に関する内容が含まれるM1～M6 授業一覧

学年	担	当	授 業 タ イ ト ル	
M 1	医療プロフェッショナルリズム入門 早期体験実習 (病院見学/ Meet the patient実習/看護師同行実習)	医学教育研究室 順天堂医院SOGIワーキンググループ外部委員	武田 裕子 宮田 瑠珂	医療におけるED&I(公平性、多様性と包摂)
		医史学研究室 医学教育研究室/生理学第二講座	澤井 直 渡邊 マキノ	医療プロフェッショナルリズム入門オリエンテーション
		医学教育研究室	奈良 信雄	医療プロフェッショナルリズム
		医学部学生部長 熱帯医学・寄生虫学講座 医史学研究室	美田 敏宏 澤井 直	医のプロフェッショナルリズムの基本的原則と医師憲章
		昭和大学 医学教育学講座	有馬 牧子	医療者のキャリア形成
		医療看護学部基礎看護学	高梨 あさき	看護の役割と機能
		医学教育研究室/呼吸器内科学講座 医史学研究室 医学教育研究室/生理学第二講座 医学教育研究室/微生物学講座	鈴木 勉 澤井 直 渡邊 マキノ 關根 美和	病院の中で仕事をすること 一 医師の責務一
		小児科学講座	細澤 麻里子	子どもの特性と全人的医療
		医学教育研究室/呼吸器内科学講座 医史学研究室 医学教育研究室/生理学第二講座 医学教育研究室/微生物学講座	鈴木 勉 澤井 直 渡邊 マキノ 關根 美和	病院内多職種演習
		医史学研究室 医学教育研究室/生理学第二講座 医学教育研究室/微生物学講座	澤井 直 渡邊 マキノ 關根 美和	病院内多職種演習の反省 I, II
		医療看護学部 医史学研究室 医学教育研究室/生理学第二講座 医学教育研究室/微生物学講座	野崎 真奈美 澤井 直 渡邊 マキノ 關根 美和	患者中心の医療の提供のために：多職種連携とは？
		医史学研究室 医学教育研究室/生理学第二講座 他学部	澤井 直 渡邊 マキノ 他学部教員	多職種連携共同ワーク 初期プログラム (Step1)
		医療看護学部高齢者看護学	杉山 智子	高齢者の介護について
		インターネットポリシースペシャリスト	宮崎 豊久	ネット社会のコミュニケーション概論
		リハビリテーション医学研究室	補永 篤	高齢者のリハビリテーション医学
		医学教育研究室/呼吸器内科学講座	鈴木 勉	高齢患者さんへの対応
		医学教育研究室/生理学第二講座 医史学研究室 医学教育研究室/微生物学講座	渡邊 マキノ 澤井 直 關根 美和	コミュニケーションの基本
		医史学研究室 医学教育研究室/生理学第二講座 医学教育研究室/微生物学講座 他	澤井 直 渡邊 マキノ 關根 美和 本郷キャンパス教員	Meet the patient 実習 オリエンテーション、実習、反省
		医史学研究室 医学教育研究室/生理学第二講座 医学教育研究室/微生物学講座	澤井 直 渡邊 マキノ 關根 美和	グループワーク 1 医学生～医療者のプロフェッショナルリズム入門
		総泉病院名誉院長	高野 喜久雄	高齢者医療の現場から
		ライフケアシステム医師	辻 彼南雄	高齢者の在宅医療
		医史学研究室 医学教育研究室/微生物学講座 医学教育研究室/生理学第二講座	澤井 直 關根 美和 渡邊 マキノ	グループワーク 2 医学生～医療者のプロフェッショナルリズム入門
		医療看護学部高齢者看護学	島田 広美	要介護高齢者の理解と技術支援
		情報センター 学術メディアセンター 医史学研究室	大内 捺稀 城山 泰彦 澤井 直	情報管理と情報リテラシー
		医史学研究室 医学教育研究室/生理学第二講座 医学教育研究室/微生物学講座	澤井 直 渡邊 マキノ 關根 美和	基礎看護実習オリエンテーション
		総合診療科学講座	鈴木 麻衣	医学生に必要な接遇・マナー
		医療看護学部 医史学研究室 医学教育研究室/生理学第二講座 医学教育研究室/微生物学講座	医療看護学部教員 澤井 直 渡邊 マキノ 關根 美和	基礎看護実習
		医史学研究室 医学教育研究室/生理学第二講座 医学教育研究室/微生物学講座	澤井 直 渡邊 マキノ 關根 美和	看護師同行オリエンテーション
		医史学研究室 医学教育研究室/生理学第二講座 医学教育研究室/微生物学講座	澤井 直 渡邊 マキノ 關根 美和	看護師同行実習

学年		担 当	授 業 タ イ ト ル	
M 1	医療入門	下部消化管外科学講座	富木 裕一	バイタルサイン
		熱帯医学・寄生虫病学講座	美田 敏宏	熱帯医学入門 1, 2
		総合診療科学講座	内藤 俊夫	医学生から始める感染症への対策 1, 2
		浦安病院 救急診療科	末吉 孝一郎	応急処置 1, 2
		スポーツ医学研究室	小松 孝行	スポーツ医学が繋ぐ医学の実践 1, 2
		小児科学講座	遠藤 周	社会の中の小児医の役割
		感染制御科学	堀 賢	感染症およびその対策 1, 2
		浦安病院 救急診療科	石原 唯史	災害医療 1, 2
		公衆衛生学講座	和田 裕雄	公衆衛生学の基礎 1, 2
		医学教育研究室/呼吸器内科学	鈴木 勉	医療面接 1, 2
		医学教育研究室	西崎 祐史	家庭医療総論 1, 2
M 1	行動科学 I	スポーツ健康科学部	黄田 常嘉	臨床心理学入門 1, 2
		スポーツ健康科学部	黄田 常嘉	自殺関連行動 1, 2
		呼吸器内科学講座	小池 建吾	医学生・医療者であるという自覚と健康 1, 2
		国際教養学部	鈴木 美奈子	健康の行動科学 1, 2
		保健看護学部	長沼 淳	身体哲学 1, 2
		聖路加国際病院	水野 篤	行動、経済学と医療 1, 2
		衛生学・公衆衛生学講座	和田 裕雄	老化と高齢者の特徴 1, 2
		スポーツ健康科学部	黄田 常嘉	嗜癮行動 1, 2
		保健看護学部	長沼 淳	身体にまつわる自己決定の問題 1, 2
		スポーツ健康科学部	黄田 常嘉	抑鬱症状と認知・行動
		スポーツ健康科学部	黄田 常嘉	神経症性障害の回避行動 1, 2
		医学部生理学第一講座	小西 清貴	神経生理学から見たところ 1, 2
		スポーツ健康科学部	黄田 常嘉	発達障害の問題行動 1, 2
M 1	PBL	保健看護学部	長沼 淳	医療の思想と倫理
M 1	生きる意志 (倫理学)	保健看護学部	長沼 淳	オリエンテーション・倫理学とは
				医療倫理の起源
				医療倫理の変容
				医療倫理と生命倫理
				自己決定権の歴史
				自己決定権①
				自己決定権②
				自己決定権③
				自己決定と他者決定①
				自己決定と他者決定②
				映像資料を使って考える
				医療の倫理①
				医療の倫理②
義務と権利				
M 1	医療社会学	医学部一般教育研究室	佐伯 みか	オリエンテーション 1, 2
				今の自分を識る/自分の原点を言語化する 1, 2
				医療ミス・事故・訴訟の原因、医療ミス・事故・訴訟の対策
				医療技術の進歩がもたらした倫理・社会問題 1, 2
				医師-患者関係 1, 2
				医師-看護師関係 1, 2
				地域医療と医師 1, 2
				AI・ロボット・IoTと医師 1, 2
				医療の質向上・保証 1, 2
				医療の質向上・保証 3, 4
				自分の原点と医療・医師 1, 2
M 1	医療行為と法	大学院医学研究科基盤センター	坪内 暁子	ヒポクラテスの誓いの現代的意義
				医療の当事者としての患者と医師①
				医療の当事者としての患者と医師②
				医療の当事者としての患者と医師③
				医療の当事者としての患者と医師④
				出生に関する法律問題①
				出生に関する法律問題②
				終末期医療の法律問題①
				終末期医療の法律問題②
				法律に基づく死の判定①
				法律に基づく死の判定②
				医師と社会①
				医師と社会②
医療行為と法				

学年		担 当	授 業 タ イ ト ル	
M 1	文化の中の健康	衛生学・公衆衛生学講座	佐藤 准子	グローバル社会に向けた保健医療サービス①, ②
		病理・腫瘍学講座	樋野 興夫	がん哲学①, ②
		衛生学・公衆衛生学講座	関 洋介	肥満と健康①, ②
		国際教養学部	辰巳 洋	人生は即ち食-食薬同源・食医同源①, ②
		池沢神経科病院精神科	儀藤 政夫	日本文化の中の精神医療①, ②
		衛生学・公衆衛生学講座	岡本 裕樹	ソーシャル・キャピタルと健康①, ②
		グローバルヘルスリサーチ	横堀 雄太	国際保健から見た健康①, ②
		衛生学・公衆衛生学講座	神作 麗	世界の多様な文化における健康①, ②
		衛生学・公衆衛生学講座	川田 裕美	健康とIT①, ②
		国際教養学部	白山 芳久	伝統的治療と近代公衆衛生学による治療と予防①, ②
		衛生学・公衆衛生学講座	野田 愛	社会格差と健康格差①, ②
		衛生学・公衆衛生学講座	友岡 清秀	現代における鍼灸治療①, ②
		衛生学・公衆衛生学講座	植田 結人	健康と睡眠①, ②
		衛生学・公衆衛生学講座	佐藤 准子	文化の中における健康観-GNPの視点から、文化の中の健康：まとめ
M 1	メディカル・ヒューマニティーズ	歴史学研究室	澤井 直	はじめに：ヒューマニティーズとは
				歴史：感染症の歴史（1）・（2）
				歴史：感染症の歴史（3）・（4）
				歴史：感染症の歴史（5）・（6）
				歴史：感染症の歴史（7）・（8）
				科学哲学：境界（1）・（2）
				科学哲学：境界（3）・（4）
				科学哲学：方法（1）・（2）
				科学哲学：理論の変遷（1）・（2）
				文学：患者の心理描写（1）・（2）
				映画：社会の中のハンセン病（1）
				映画：社会の中のハンセン病（2）
				メディア：漫画が伝えるもの（1）・（2）
				まとめ：メディカル・ヒューマニティーズとは
M 1	医学研究入門Ⅱ	基礎研究医養成プログラム	伝田 香里	研究入門、まとめ

学年		担 当	授 業 タ イ ト ル
M 2	Zone C	薬理学 櫻井 隆 疾患モデル研究センター 佐藤 栄人	生理・薬理実習オリエンテーション 動物実験と遺伝子組換え実験
M 2	Zone D	微生物学 伊東 祐美 微生物学 講座内全員 微生物学 講座内全員	微生物-3：消毒と滅菌と微生物検査 微生物学実習1：病原微生物取り扱いの基本手技 微生物学実習2：常在菌、病原菌の検出と同定。滅菌と消毒
M 2	Unit 1	解剖学・生体構造科学 市村 浩一郎	解剖 1：解剖実習序論
M 2	医療体験実習	医学教育研究室 全教員	オリエンテーション①② 附属病院実習後カリキュラム
M 2	臨床倫理から見た医療者のプロフェッショナリズム	病院管理学研究室 川崎 志保理	臨床倫理から見た医療者のプロフェッショナリズム
M 2	OSCE運営補助	医学教育研究室 全教員	OSCE運営補助オリエンテーション-1 OSCE運営補助オリエンテーション-2 OSCE運営補助 Post Clinical Clerkship OSCE運営補助
M 3	Zone E	衛生学・公衆衛生学 伊藤 弘明	疫学-3 疫学方法論
		革新的医療技術開発研究センター 野尻 宗子	疫学-15 治験
		医学史研究室/衛生学・公衆衛生学 澤井 直/谷川 武	社会医学序論-2 医療倫理 その1 医療倫理の歴史的展開と、その社会的背景
		医学史研究室/衛生学・公衆衛生学 澤井 直/谷川 武	社会医学序論-4 医療倫理 その2 医療倫理の原則と事例（ケース）
		法医学講座/衛生学・公衆衛生学 齋藤 一之/谷川 武	社会医学序論-6ヘルスケアと法
M 3	Zone F	病理・腫瘍学講座 小林 敏之	遺伝子異常と疾患-1
		難病の診断と治療研究センター 恒松 由記子	遺伝子異常と疾患-2
		人体病理病態学 松本 俊治	遺伝子異常と疾患-3
		法医学 齋藤 一之	中毒-1：「法中毒学（1）」
		法医学 齋藤 一之	中毒-4：「法中毒学（2）」
		放射線治療学 小此木 範之	中毒-7：「放射線とその影響」
		衛生学 横山 和仁	中毒-8：「化学物質と社会-2」
		衛生学 篠原 厚子	中毒-9：「化学物質と社会-3」
		衛生学 松川 岳久	中毒-10：「化学物質と社会-4」
		臨床薬理学 佐瀬 一洋	臨床薬理学-2：医薬品開発と規制科学、臨床試験の倫理性
消化器内科学 大久保 裕直	臨床薬理学-3：「消化器悪性腫瘍に対する化学療法」の進歩		
M 3	医療体験実習	医学教育研究室 全教員	オリエンテーション①② 附属病院実習後カリキュラム
M 3	Group 2	麻酔科学・ペインクリニック 林田 真和	麻酔・ペイン01：麻酔総論
M 3	Group 4	医学教育研究室 富木 裕一	医療面接01：医療面接の進め方
精神医学 黄田 常嘉		精神-09：司法精神医学・パーソナリティ障害	
M 4	Group 7	小児科学講座/産婦人科学講座 北村 裕梨/伊熊 慎一郎	G7-行動医学02コミュニケーションと生命倫理①
M 4	Group9	血液学講座 木下 慎太郎	G9-腫瘍09がんの治療と倫理
		学生部 -	G9-倫理01「倫理医療安全」「臨床人間教育」
		消化器外科学講座 坂本 一博	G9-外科総論01外科治療論
		病院管理学研究室 山本 宗孝	G9-医療安全01事故と倫理からの医療安全
		臨床薬理学 佐瀬 一洋	G9-臨床薬理01臨床薬理：主な薬剤の副作用とリスクベネフィット評価
M 4	行動科学Ⅱ・社会医学	北里大学 渡辺 和広	公衆衛生学-11 精神保健
		衛生学・公衆衛生学 全教員	衛生・公衆衛生実習
M 4	臨床実習前 トレーニング	法医学講座 全教員	法医学実習
		病院管理学研究室 山本 宗孝	医師としてのマナー・接遇・医療事故
		病院管理学研究室 岩井 完	リスクマネジメント
		血液内科学 浜埜 康晴	インフォームドコンセント
		医学教育/呼吸器内科学 鈴木 勉	患者安全目標（JCI）
		革新的医療技術開発研究センター 後藤 景子	ゲノム医療と情報の特性
レジャー病院 レジャーカレッジ カレッジ	イスラム教における死生観		
臨床遺伝学 新井 正美	遺伝医療概論		
M 4	M4臨床コア実習	臨床実習を担当する教員等が院内各所で医の原則・医学と医療の倫理等に係る指導を適宜おこなう	
M 5	M5臨床コア実習		
M 6	M6臨床エキスパート実習		
M 6	学生インターンシップ実習（選択コース）		
M 6	必修講義		臨床医学系・社会医学系の教員が医の原則・医学と医療の倫理等に係る内容を適宜講義する

## － 各学年の進級判定基準 －

### 1. 進級ならびに卒業判定の基本

進級ならびに卒業判定は、各学年における総合試験・個別試験・再試験の結果、体験実習・実験実習・臨床実習・共用試験（OSCE, CBT）など（以下「試験等」という）の評価、GPA、医学生としての態度・モチベーション、健康状況等を総合的に評価して、進級（卒業）判定会議・教授会等において審議し、学長が決定する。

### 2. 各学年における試験等

#### 1年次

- 1) 一般教育： 前期・後期の各授業において指定された試験
- 2) 基礎医学入門： 定期試験： 組織細胞生物学定期試験  
定期試験再試験： 組織細胞生物学定期試験再試験

#### 2年次

- 1) 総合試験： ZoneA 組織学試験、ZoneA 神経解剖学試験、ZoneA 脳解剖実習試験、ZoneB 総合試験（生化学）、ZoneB 総合試験（発生）、ZoneC 総合試験、ZoneD 総合試験、Unit1 総合試験  
実験実習： 組織学実習、脳解剖学実習、生化学・分子生物学実習、生理・薬理学実習、微生物学実習、免疫学実習、寄生虫病学実習、人体解剖実習
- 2) 総合試験再試験： ZoneA 組織学再試験、ZoneA 神経解剖学再試験、ZoneB 総合試験再試験（生化学）、ZoneB 総合試験再試験（発生）、ZoneC 総合試験再試験、ZoneD 総合試験再試験、Unit1 総合試験再試験
- 3) 個別試験： Zone・Unit でおこなわれる総合試験・総合試験再試験以外の試験
- 4) 体験実習等評価： 医学研究 I、基本手技、医療体験実習、臨床倫理から見た医療者のプロフェッショナルリズム、救急医学実習、OSCE 運営補助
- 5) English： 中間試験、最終試験

## 3年次

- 1) 総合試験： ZoneE 総合試験、ZoneF 総合試験、Group1 総合試験、Group2 総合試験、Group3 総合試験、Group4 総合試験、Group5 総合試験、Group6 総合試験  
実験実習： 疫学・統計学演習、病理学総論実習、救急医学実習
- 2) 総合試験再試験： ZoneE 総合試験再試験、ZoneF 総合試験再試験、Group1 総合試験再試験、Group2 総合試験再試験、Group3 総合試験再試験、Group4 総合試験再試験、Group5 総合試験再試験、Group6 総合試験再試験
- 3) 基礎ゼミナール
- 4) 体験実習等評価： 基本手技、診察技法、医療面接、医療体験実習
- 5) English

## 4年次

- 1) 総合試験： Group7 総合試験、Group8 総合試験、Group9 総合試験、行動科学Ⅱ・社会医学試験、臨床実習前トレーニング試験、M4 臨床コア実習試験
- 2) 総合試験再試験： Group7 総合試験再試験、Group8 総合試験再試験、Group9 総合試験再試験、行動科学Ⅱ・社会医学試験再試験、臨床実習前トレーニング試験再試験、M4 臨床コア実習試験再試験
- 3) 臨床実習等評価： 臨床実習前トレーニング、M4 臨床コア実習
- 4) 共用試験： C B T、O S C E
- 5) 共用試験再試験： C B T再試験、O S C E 再試験
- 6) English

## 5年次

- 1) 総合試験： M5 臨床コア実習試験、B S L 総合試験
- 2) 総合試験再試験： M5 臨床コア実習試験再試験、B S L 総合試験再試験
- 3) 臨床実習評価： M5 臨床コア実習、M5 臨床エキスパート実習

## ※評価方法

- 1) 2024年度2年次～5年次のカリキュラムに関する合否判定・評点については、出席状況、プレテスト・ポストテスト、レポート・スケッチ等の成績、実習の成績、勉学態度等も加味し総合的に判定を行う。

判定	評価	評点	G P	備考
合格	S	100点～90点	4	到達目標を十分に達成し、極めて優秀である。
	A	89点～80点	3	到達目標を十分に達成している。
	B	79点～70点	2	到達目標を相応に達成している。
	C	69点～60点	1	到達目標の最低限は満たしている。
再試験合格	C	60点	1	到達目標の最低限は満たしている。
不合格	D	59点～0点	0	到達目標の最低限の水準を満たしていない。

## 【GPA算出計算式】

$$\text{GPA} = \frac{\boxed{\begin{array}{c} \text{Sの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 4 \end{array}} + \boxed{\begin{array}{c} \text{Aの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 3 \end{array}} + \boxed{\begin{array}{c} \text{Bの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 2 \end{array}} + \boxed{\begin{array}{c} \text{Cの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 1 \end{array}} + \boxed{\begin{array}{c} \text{Dの} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 0 \end{array}}}{\text{履修単位(科目)数}}$$

## 6年次

- 1) 総合試験： 臨床エキスパート実習試験
- 2) 卒業試験： 総合試験、卒業試験1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8、Post Clinical Clerkship OSCE
- 3) 補助試験・再試験： 臨床エキスパート実習試験再試験、総合試験再試験、卒業補助試験 A. B. C. D、Post Clinical Clerkship OSCE 再試験
- 4) 臨床実習評価： M6 臨床エキスパート実習、学生インターンシップ実習（選択コース）

なお、教務委員会で指定された他の試験等を追加し、卒業・進級判定の参考とすることができる。

### 3. 受験資格

- 1) 受験資格は、規定する授業時間の3分の2以上を出席した者に与える。なお、他の受験資格については、教務委員会の申し合わせに従い、別途考慮する。
- 2) 体験実習及び実験実習については、当該授業のすべてに出席することを原則とする。
- 3) 個別試験・総合試験・補助試験・定期試験・共用試験・実習評価の試験等を無断欠席した場合には、次年度の当該科目の試験まで受験資格を与えない。取り扱いは、進級判定会議において審議する。

### 4. 試験判定

#### 1年次

- 1) 一般教育カリキュラムは、前期・後期の各科目責任者が評価し、一般教育協議会にて審議する。
- 2) 基礎医学入門定期試験は科目責任者が評価し、教務委員会にて審議する。  
定期試験に不合格となった者には再試験を課す。判定は教務委員会で審議する。

#### 2～5年次

- 1) 総合試験は、Zone・Unit・Group・臨床コア実習・臨床実習担当オーガナイザーが評価し、教務委員会にて審議する。  
総合試験に不合格となった者には総合試験再試験を課す。総合試験再試験の判定は教務委員会で審議する。
- 2) 個別試験は、授業責任者が評価し、教務委員会に報告する。個別試験の再試験は実施しない。
- 3) 共用試験C B T、共用試験C B T再試験、共用試験O S C E、共用試験O S C E再試験は、医療系大学間共用試験実施評価機構で提示された基準で判定し、教務委員会にて審議する。

#### 6年次

- 1) 総合試験は、担当教務委員が評価し、教務委員会にて審議する。
- 2) 卒業試験は、「医学部卒業試験に関する基準」に準拠する。

### 5. 試験中の不正行為に対する処置について

- ① 試験中試験監督者が、学生の不正行為を発見して、その事実を確認したときは、その学生を試験場外に退出させる。
- ② 試験で不正行為を行った学生に対しては、理由の如何を問わず、学則第63条および第64条に則り、停学の懲戒処分とする。
  - i. 停学期間は1か月とする。
  - ii. 直接的に不正行為を行っていなくとも、不正行為に加担した場合にも原則として停学の処分を科す。
  - iii. 当該授業科目の成績を0点とする。
- ③ 試験終了後においても、当該科目担当者が不正行為があったと判断し、その事実を確認したときは、同様の処置を検討する。

## 6. 成績評価の確認及び成績に対する異議申立てについて

- ① 学生は、当該期の履修科目に係る成績評価について、次に該当する場合に、成績評価の確認及び異議を申し立てることができる。
  - i. 成績の誤記入等、授業担当教員の評価誤りであると思われるもの。
  - ii. シラバス又は授業担当教員の説明等により周知している成績評価の方法から著しく逸脱した評価であると思われるもの。
  - iii. その他合理的又は客観的な根拠があるもの。
- ② 成績評価の確認を行う学生は、「成績評価確認願（別紙様式 1、以下「確認願」という。）」を教務課に提出しなければならない。成績評価の確認を行うことができる期間は、「①各科目の合否（再試験対象）の発表」「②再試験結果の通達」に際して、結果発表（通達）日の翌日 17 時までとする。
- ③ 学生からの確認願が提出された場合、教務課は、内容を確認のうえ、当該授業担当教員が「回答書」を作成し、学生に交付する。
- ④ 学生は、「回答書」の交付を受けた後、その内容になお疑義がある場合は、交付後 1 週間以内に、「成績評価に関する異議申立書（別紙様式 2、以下「異議申立書」という。）」により、教務委員会による調査を教務課に依頼することができる。
- ⑤ 「異議申立書」により、調査依頼があった場合は、必要な調査を行ったうえ、「異議申立回答書」により当該学生に速やかに調査結果を回答する。
- ⑥ 「異議申立回答書」に対しての再異議申立ては認めない。



